

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)
「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業(H28-H33)」

平成28年度 「研究環境に関するアンケート」 実施報告



東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion



文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）
「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業（H28-H33）」

平成 28 年度
「研究環境に関するアンケート」
実施報告

CONTENTS 目次

はじめに	01
1. 調査概要	
1-1. 調査目的	02
1-2. 調査方法	02
1-3. 調査対象	02
1-4. 調査期間	02
1-5. 調査項目	02
1-6. 実施体制	03
1-7. 倫理的配慮	03
1-8. 回収率	03
2. アンケート結果	
2-1. 結果概要	05
2-2. 回答者プロフィール	05
2-3. 研究キャリア	07
2-4. ライフ関連	11
2-4-1. 配偶者(パートナー)について	11
2-4-2. 子どもについて	13
2-4-3. 時間の使い方について	15
2-4-4. ワークライフバランスについて	18
2-5. 男女共同参画・女性研究者支援	20
2-6. まとめ	22
3. 資料	
3-1. アンケート依頼文(調査票)	23
3-2. 調査項目一覧・基礎集計表	24
3-3. 自由記述回答	45

本アンケート結果の詳細は、東北大学男女共同参画推進センターHP
(URL: <http://www.tumug.tohoku.ac.jp/>) 内の、
平成28年度「研究環境に関するアンケート実施報告」の項に示す。

はじめに

東北大学は大正2年、当時の国立大学として初めて女性に門戸を開き、3名の女子学生が入学しました。その伝統の下、平成13年に全学的組織として男女共同参画委員会を発足させ、男女格差の是正、研究・労働環境の改善、学内保育園の設置・運営を含めた両立支援体制の充実等に努めてまいりました。これまでに文部科学省の女性研究者支援事業による支援や大学独自経費による「男女共同参画・女性研究者支援事業」により女性研究者に焦点を当てた支援を実施してきましたが、この度、平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択され、平成28年度から6年間にわたり「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」を推進することになりました。本事業では、推進体制の確立、女性研究者の採用と上位職への積極的登用に向けた取組、グローバル化に対応したダイバーシティ研究環境整備のための取組、女性研究者の研究力及びリーダー育成の取組、次世代の女性研究者育成の取組、ダイバーシティ研究環境整備に関する意識醸成と広報活動の6つの取組を進めています。

事業の開始にあたり、本学の研究環境の実態を明らかにし、今後の事業実施に生かしていくことを目指して研究に従事している教職員(常勤の教員及び教育・研究等に従事している非常勤職員[医員、教育研究支援者、研究支援者、産学官連携研究員等])を対象にしたアンケートを実施しました。短い調査期間にもかかわらず貴重な時間を割いて回答を寄せて下さった皆様に心より感謝申し上げます。

このアンケート調査の結果を有効に活用しつつ、本学の現状に即した男女共同参画推進やワークライフバランスの実現につながる事業を着実に進めて参ります。

平 29 年 3 月 吉 日
理事(総務・国際展開・事務統括担当)
男女共同参画推進センター長
植木 俊哉

1-1 調査目的

東北大学の研究職を取り巻く研究環境の実態を明らかにするとともに、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）の取組の周知の機会となることを期待して実施した。過去に男女共同参画委員会が教職員及び大学院生を対象として男女共同参画あるいは研究者支援事業、保育園設置に関する大規模な調査を実施したことはあった（平成16年度、17年度、20年度、22年度、24年度）が、研究環境に関する調査は本調査が初となる。

1-2 調査方法

本調査は、東北大学の研究者を対象として平成29年2月1日より2月12日に実施されたものである。本報告書資料に収録されている調査票をWeb上に掲げ、Web上で回答を行うように依頼した。対象者には、各部局事務担当者を通じて掲示による周知を図る一方で、部局長や男女共同参画委員会委員、女性研究者エンパワーメントタスクフォース、女性研究者に対して実施協力を別途依頼した。

1-3 調査対象

本調査は、平成29年2月1日時点で東北大学に所属する常勤の教員及び教育・研究等に就いている非常勤職員（医員、教育研究支援者、研究支援者、産学官連携研究員等）を対象とした。

1-4 調査期間

調査期間は平成29年2月1日から平成29年2月12日までとした。2月1日にWeb上でアンケートを公開するとともに、センター長より部局長に「『研究環境に関するアンケート』について(依頼)」を送付した。

1-5 調査項目

■ セクションA 基礎事項

性別、年齢、職名、雇用形態及び任期、最終学歴、研究分野、勤務キャンパス、所属部局

■ セクションB 研究キャリア

研究キャリアの長さ、東北大学での研究キャリアの長さ、研究キャリアを離れた経験、現在の研究へのやりがい・満足、今後のキャリアに対する考え

■ セクションC ライフ関連

パートナーの有無及びパートナーの職業、子どもの数、年代、子育て支援制度の利用状況、平日の時間配分、昨年度の教育・会議等への出席・研究状況、ワークライフバランスへの満足状況

■ セクションD 男女共同参画・女性研究者支援

回答者自身の男女共同参画・研究者支援に関する取組、東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関する知識と参加状況、東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に対する意見・要望

1-6 実施体制

調査の企画立案、調査方法の検討、調査結果の分析は男女共同参画推進センターが行った。調査フォームの作成及びデータの集計は株式会社リード・サインが行った。

1-7 倫理的配慮

調査結果は、回答者が特定されないように統計処理を行った上で公表している。自由記載欄については、個人を特定できない形で転記している。

1-8 回収率

平成29年2月12日までの回答分を有効回答として分析した。

有効回答数：529名

全対象者数（職員数）：4592名

回答率：11.5%（回答率＝有効回答数／職員数）

■ 部局別回答者数および回答率

部局名	対象者数	回答者数	回答率
文学部・文学研究科	96	28	29.2%
教育学部・教育学研究科	37	9	24.3%
法学部・法学研究科	62	13	21.0%
経済学部・経済学研究科	87	13	14.9%
理学部・理学研究科	300	25	8.3%
医学部・医学系研究科	387	30	7.8%
歯学部・歯学研究科	120	3	2.5%
薬学部・薬学研究科	84	28	33.3%
工学部・工学研究科	495	46	9.3%

部局名	対象者数	回答者数	回答率
農学部・農学研究科	166	37	22.3%
国際文化研究科	42	13	31.0%
情報科学研究科	118	12	10.2%
生命科学研究科	130	19	14.6%
環境科学研究科	79	14	17.7%
医工学研究科	50	7	14.0%
教育情報学研究所	10	9	90.0%
金属材料研究所	179	36	20.1%
加齢医学研究所	81	20	24.7%
流体科学研究所	60	13	21.7%
電気通信研究所	86	24	27.9%
多元物質科学研究所	200	36	18.0%
災害科学国際研究所	92	9	9.8%
東北アジア研究センター	29	3	10.3%
病院	1090	8	0.7%
高度教養教育・学生支援機構	111	29	26.1%
その他	766	22	2.9%
部局未回答	-	23	-
合計	4592	529	11.5%

対象者数は平成 28 年 11 月 28 日現在

2-1 結果概要

本調査は研究に従事している東北大学の教職員を対象とし、平成 29 年 2 月 1 日から 2 月 12 日に、Web 上アンケートとして実施された。アンケート回答率については（本書 6 ページを参照）、最も高い部局から「教育情報学研究所」90.0%、「薬学部・薬学研究科」33.3%、「国際文化研究科」31.0%、「文学部・文学研究科」29.2%、「電気通信研究所」27.9%、「高度教養教育・学生支援機構」26.1%であった。全対象者 4592 名の内、529 名より回答が得られ、全体の回答率は 11.5%であった。以下、各項目別に調査結果の概要を示す。

2-2 回答者プロフィール

■ 性別 (Q1)

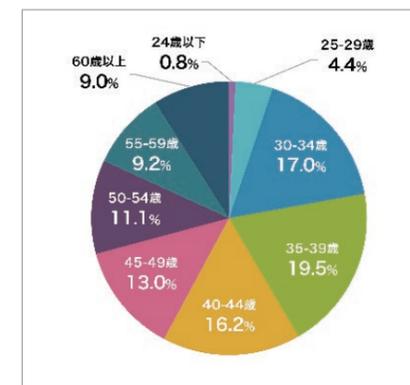
全回答者 529 名のうち、回答者の性別は、男性 357 名 (67.5%)、女性 162 名 (30.6%) であった（無回答あり）。この内、回答者を教員（助手を含む）に限定すると、男性 335 名 (74.2%)、女性 116 名 (25.8%) であった。教員の場合、回答者に占める女性の割合 25.8%は、対象者に占める割合 13.5%（平成 28 年 10 月現在における東北大学教員〔助手を含む〕の女性比率）と比べて高いことが分かる。また教員以外の回答者は、男性 22 名 (32.4%)、女性 46 名 (67.6%)、であり、女性の割合が高い結果であった。

■ 年齢 (Q2)

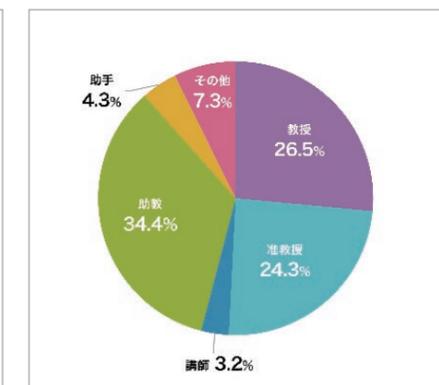
最も多い年代は「35 歳～39 歳」で 19.5%であった。

■ 職名 (Q3)

最も多い職位は「助教（特任を含む）」で 34.4%であった。



Q2. 年齢 (2017 年 2 月現在)



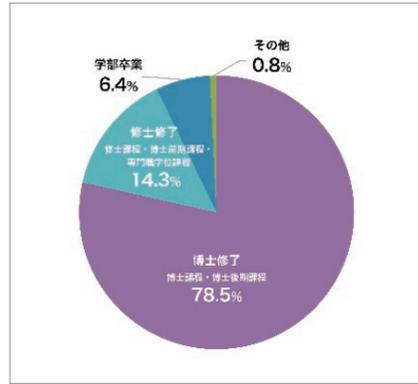
Q3. 職名

■ 雇用形態及び任期 (Q4)

現在の雇用形態は、「常勤(任期あり)」47.1%、「常勤(任期なし)」45.6%、「非常勤」6.8%であり、常勤職員が大半を占めた。「任期あり」が「任期なし」をやや上回っていた。任期がある回答者のうち、任期を「4年以上」と回答した者が54.3%おり、比較的任期は長期であった。

■ 最終学歴 (Q5)

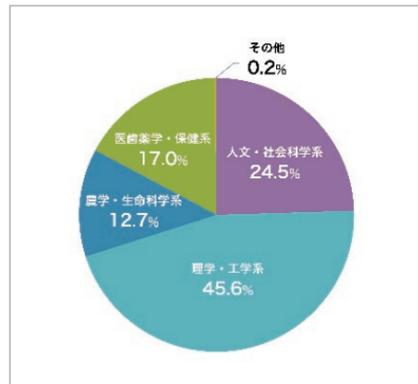
最も多い最終学歴は「博士修了(博士課程・博士後期課程)」で78.5%であり、次いで「修士修了(修士課程・博士前期課程・専門職学位課程)」で14.3%、「学部卒業」6.4%であった。



Q5. 最終学歴

■ 研究分野 (Q6)

最も多い研究分野は「理学・工学系」で45.6%。次に多い研究分野は「人文・社会科学系」で24.5%であった。「医歯薬学・保健系」は17.0%、「農学・生命科学系」は12.7%であった。



Q6. 研究分野

■ 勤務キャンパス (Q7)

最も多い勤務キャンパスは「片平」135名(25.9%)、次に「川内」118名(22.6%)であった。その他大規模なキャンパスとしては、「青葉山北キャンパス」85名(16.3%)、「星陵」74名(14.2%)、「青葉山東キャンパス」58名(11.1%)、「青葉山新キャンパス」41名(7.9%)の順であった。

■ 所属部局 (Q8)

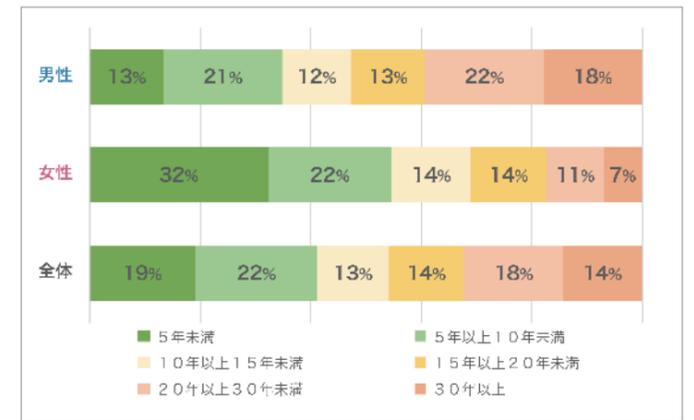
最も回答数の多い所属部局は「工学部・工学研究科」で46名(全回答数に占める割合は9.1%)であった。その他は回答数の多い部局から、「農学部・農学研究科」37名(同7.3%)、「金属材料研究所」36名(同7.1%)、「多元物質科学研究所」36名(同7.1%)であった。

2-3

研究キャリア

■ 研究キャリアの長さ (Q9)

研究者としてのキャリアの長さは、「5年以上10年未満」が115名(22.0%)、「5年未満」が100名(19.1%)と多く、キャリアが短い回答者が多い。その一方で20年以上のキャリアを持つ回答者も32.3%(内訳:「20年以上30年未満」が94名[18.0%]、「30年以上」が75名[14.3%])を占めており、キャリアの長さは分散しているといえる。

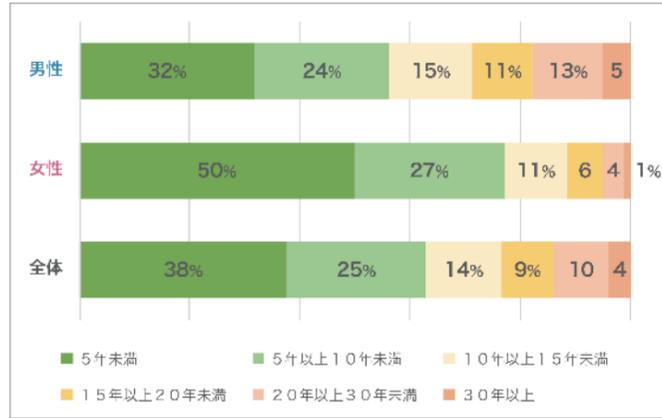


Q9. 研究キャリアの長さ

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
5年未満	100	19.1	48	13.5	52	32.3	0	0.0	0	0.0
5年以上10年未満	115	22.0	76	21.3	36	22.4	1	33.3	2	66.7
10年以上15年未満	68	13.0	44	12.4	23	14.3	1	33.3	0	0.0
15年以上20年未満	71	13.6	48	13.5	22	13.7	0	0.0	1	33.3
20年以上30年未満	94	18.0	77	21.6	17	10.6	0	0.0	0	0.0
30年以上	75	14.3	63	17.7	11	6.8	1	33.3	0	0.0
合計	523	100.0	356	100.0	161	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	523	98.9	356	67.3	161	30.4	3	0.6	3	0.6
無回答	6	1.1	1	0.2	1	0.2	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 東北大学での研究キャリアの長さ (Q10)

東北大学での研究キャリアの長さに関しては、「5年未満」が195名(37.6%)、「5年以上10年未満」が131名(25.2%)と多く、キャリアが短い回答者の占める割合が高くなっている。

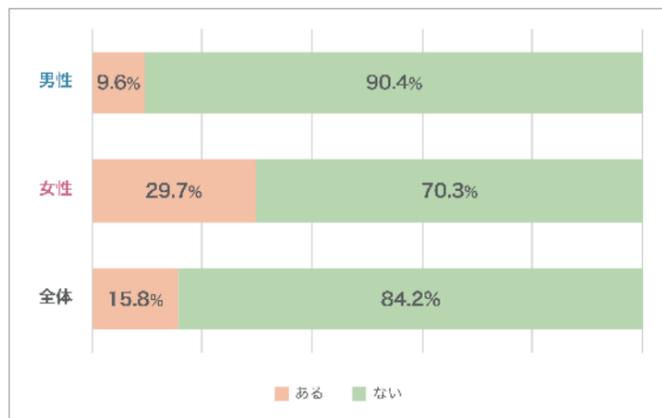


Q10. 東北大学での研究キャリアの長さ

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
5年未満	195	37.6	113	31.7	79	50.0	2	66.7	1	50.0
5年以上10年未満	131	25.2	87	24.4	43	27.2	0	0.0	1	50.0
10年以上15年未満	72	13.9	54	15.2	18	11.4	0	0.0	0	0.0
15年以上20年未満	49	9.4	39	11.0	10	6.3	0	0.0	0	0.0
20年以上30年未満	51	9.8	45	12.6	6	3.8	0	0.0	0	0.0
30年以上	21	4.0	18	5.1	2	1.3	1	33.3	0	0.0
合計	519	100.0	356	100.0	158	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	519	98.1	356	67.3	158	29.9	3	0.6	2	0.4
無回答	10	1.9	1	0.2	4	0.8	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 研究キャリアを離れた経験 (Q11)

今までに研究者としてのキャリアを離れた経験があるかどうかを尋ねたところ、「ある」とした回答者が82名(15.8%)おり、このうち女性は47名であった。男女別に見たところ、女性のうち研究キャリアを離れた経験がある者は47名(29.7%)だったのに対し、男性の場合、キャリアを離れた経験があるのは34名(9.6%)にとどまった。



Q11. 研究キャリアを離れた経験

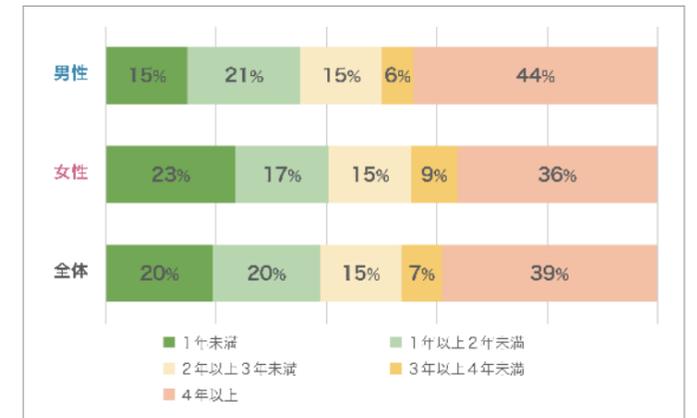
回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
ある	82	15.8	34	9.6	47	29.7	1	33.3	0	0.0
ない	438	84.2	322	90.4	111	70.3	2	66.7	3	100.0
合計	520	100.0	356	100.0	158	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	520	98.3	356	67.3	158	29.9	3	0.6	3	0.6
無回答	9	1.7	1	0.2	4	0.8	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 研究キャリアを離れた期間 (Q11-1)

研究キャリアを離れた期間は、「4年以上」に及ぶ者が32名(39%)と最も多い。「1年未満」16名(19.5%)、「1年以上2年未満」16名(19.5%)、「2年以上3年未満」12名(14.6%)、「3年以上4年未満」6名(7.3%)のいずれをも上回った。

研究キャリアを離れた理由としては、「その他」が33名(60.0%)と最も多い。

「その他」として挙げられている理由のうち、具体的に記されているものからは民間企業への就職、医局人事によるものであるということが分かった。「その他」以外の選択肢を選んだ回答者は、「出産」14名(25.5%)、「結婚」5名(9.1%)、「育児」3名(5.5%)であった。



Q11-1. 男女別・キャリアを離れた期間

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1年未満	16	19.5	5	14.7	11	23.4	0	0.0	0	0.0
1年以上2年未満	16	19.5	7	20.6	8	17.0	1	100.0	0	0.0
2年以上3年未満	12	14.6	5	14.7	7	14.9	0	0.0	0	0.0
3年以上4年未満	6	7.3	2	5.9	4	8.5	0	0.0	0	0.0
4年以上	32	39.0	15	44.1	17	36.2	0	0.0	0	0.0
合計	82	100.0	34	100.0	47	100.0	1	100.0	0	0.0
有効回答	82	15.5	34	6.4	47	8.9	1	0.2	0	0.0
無回答	447	84.5	323	61.1	115	21.7	2	0.4	7	1.3
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 現在の研究へのやりがい・満足 (Q12)

ほとんどの回答者(475名[90.6%])が「現在の研究(仕事)にやりがいや満足感」を感じていて、やりがいや満足感を感じていない回答者は49名(9.4%)しかいなかった。「現在の研究(仕事)にやりがいや満足感」を感じている回答者に対してどのようなところにやりがいや満足感を感じているかを自由記述で書いてもらったところ、以下のような答えが得られた。

- ・研究が着実に進んでいること
- ・学生の指導
- ・成果が評価されるとき

(自由記述より抜粋。回答の詳細は巻末の「3. 資料」を参照。)

一方、「現在の研究(仕事)にやりがいや満足感」を感じていない回答者に「研究(仕事)がどのようなにやりがいや満足感があるか」を問うたところ、以下のような答えが得られた。

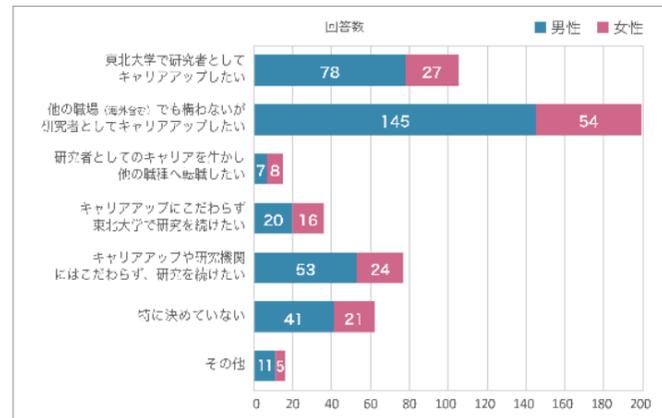
- ・自由な研究
- ・十分に研究に集中できる時間があれば
- ・雑用が多い、事務処理が多い

(自由記述より抜粋。回答の詳細は巻末の「3. 資料」を参照。)

■ 今後のキャリアに対する考え (Q13)

今後のキャリアについての考えを尋ねたところ、過半数の305名(59.2%)が研究者としてのキャリアアップを希望していることが分かった(内訳:「東北大学で研究者としてキャリアアップしたい」105名[20.4%]、「他の職場(海外含む)でも構わないが、研究者としてキャリアアップしたい」200名[38.8%])。「キャリアアップや研究機関にはこだわらず、研究を続けたい」79名(15.3%)と合わせると、何らかの形で研究を続けていきたいと考えている回答者は合計で420名(81.5%)に上り、研究者としてのキャリアを形成していくことを希望する者が大半であることが分かる。

一方、現在の勤務大学である東北大学での研究者としてのキャリアアップを希望している回答者105名(20.4%)を「キャリアアップにこだわらず東北大学で研究を続けたい」36名(7%)と合わせると、141名(27.4%)となり、4分の1以上の回答者が東北大学で働き続けることを希望していることも分かる。男女別に見た場合、キャリアアップを希望する者の割合は男性の方が女性よりも高かった。その一方で、「キャリアアップにこだわらず、東北大学で研究を続けたい。」という回答者の割合は女性の方が高かった。



Q13. 男女別・今後のキャリアに対する考え

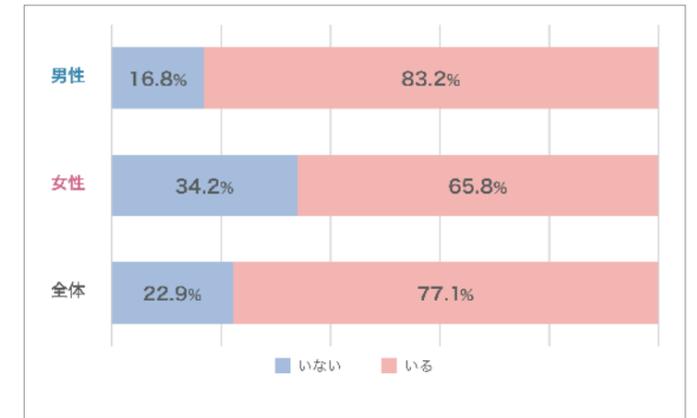
回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
東北大学で研究者としてキャリアアップしたい	105	20.4	78	22.0	27	17.4	0	0.0	0	0.0
他の職場(海外含む)でも構わないが、研究者としてキャリアアップしたい	200	38.8	145	40.8	54	34.8	0	0.0	1	50.0
研究者としてのキャリアを生かし、他の職種へ転職したい	15	2.9	7	2.0	8	5.2	0	0.0	0	0.0
キャリアアップにこだわらず、東北大学で研究を続けたい	36	7.0	20	5.6	16	10.3	0	0.0	0	0.0
キャリアアップや研究機関にはこだわらず、研究を続けたい	79	15.3	53	14.9	24	15.5	2	66.7	0	0.0
特に決めていない	63	12.2	41	11.5	21	13.5	0	0.0	1	50.0
その他	17	3.3	11	3.1	5	3.2	1	33.3	0	0.0
合計	515	100.0	355	100.0	155	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	515	97.4	355	67.1	155	29.3	3	0.6	2	0.4
無回答	14	2.6	2	0.4	7	1.3	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

2-4 ライフ関連

2-4-1. 配偶者(パートナー)について

■ 配偶者(パートナー)の有無(Q14)

配偶者(パートナー)がいる人といない回答者の割合は、それぞれ「いる」404名(77.1%)と「いない」120名(22.9%)であり、配偶者がいる回答者が大半を占める。男女別に見たところ、配偶者がいない回答者の割合が男性60名(16.8%)に対して女性55名(34%)と、配偶者がいない回答者の割合は女性の方が高かった。

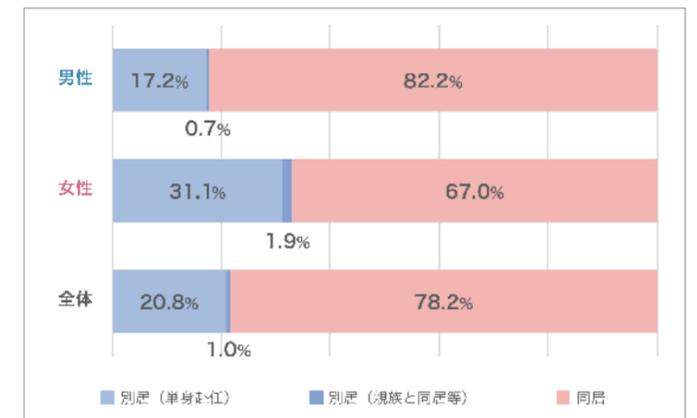


Q14. 男女別・配偶者の有無

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
いる	404	77.1	297	83.2	106	65.8	0	0.0	1	33.3
いない	120	22.9	60	16.8	55	34.2	3	100.0	2	66.7
合計	524	100.0	357	100.0	161	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	524	99.1	357	67.5	161	30.4	3	0.6	3	0.6
無回答	5	0.9	0	0.0	1	0.2	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 配偶者との同居状況(Q14-1)

配偶者と同居している人と同居していない人の割合はそれぞれ316名(78.2%)と88名(21.8%)である。男女別に見たところ、配偶者と別居している回答者の割合は、男性53名(17.8%)に対して女性35名(33.0%)と、女性の方が別居住まいしている回答者の割合が高いことが分かった。

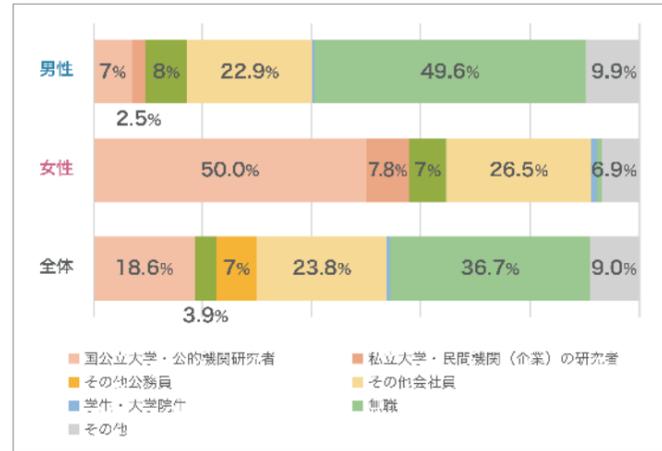


Q14-1. 男女別・配偶者との同居状況

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
同居	316	78.2	244	82.2	71	67.0	0	0.0	1	100.0
別居(単身赴任)	84	20.8	51	17.2	33	31.1	0	0.0	0	0.0
別居(親族と同居等、単身赴任以外)	4	1.0	2	0.7	2	1.9	0	0.0	0	0.0
合計	404	100.0	297	100.0	106	100.0	0	0.0	1	100.0
有効回答	404	76.4	297	56.1	106	20.0	0	0.0	1	0.2
無回答	125	23.6	60	11.3	56	10.6	3	0.6	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 配偶者の職業 (Q14-2)

配偶者の職業を訪ねたところ、男性の回答では、約半数(141名[49.6%])が配偶者は「無職」であるとし、ついで「その他会社員」65名(22.9%)、「その他」28名(9.9%)、「その他公務員」22名(7.7%)、「国公立大学・公的機関研究者」20名(7.0%)、と続いた。これに対して女性では「国公立大学・公的機関研究者」を配偶者に持つ回答者が51名と半数(50.0%)を占めた。ついで「その他会社員」27名(26.5%)、「私立大学・民間機関(企業)の研究者」8名(7.8%)、「その他公務員」7名(6.9%)、「その他」7名(6.9%)、であった。配偶者の主な職業は、性別により大きく異なる結果となった。



Q14-2. 男女別・配偶者の職業

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
国公立大学・公的機関研究者	72	18.6	20	7.0	51	50.0	0	0.0	1	100.0
私立大学・民間機関(企業)の研究者	15	3.9	7	2.5	8	7.8	0	0.0	0	0.0
その他公務員	29	7.5	22	7.7	7	6.9	0	0.0	0	0.0
その他会社員	92	23.8	65	22.9	27	26.5	0	0.0	0	0.0
学生・大学院生	2	0.5	1	0.4	1	1.0	0	0.0	0	0.0
無職	142	36.7	141	49.6	1	1.0	0	0.0	0	0.0
その他	35	9.0	28	9.9	7	6.9	0	0.0	0	0.0
合計	387	100.0	284	100.0	102	100.0	0	0.0	1	100.0
有効回答	387	73.2	284	53.7	102	19.3	0	0.0	1	0.2
無回答	142	26.8	73	13.8	60	11.3	3	0.6	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 配偶者の東北大学との関係 (Q14-3)

配偶者の東北大学との関係を訪ねたところ、男性の回答では「配偶者が東北大学の教職員・学生である」という回答者は27名(9.1%)に上った。これに対して女性は33名(31.1%)であり、女性の割合の方が男性よりも圧倒的に高かった。

2-4-2. 子どもについて

■ 子どもの有無 (Q15)

子どもがいる回答者は313名(59.7%)、子どもがいない回答者は211名(40.3%)であった。男女別に見た場合、男性236名(66.1%)の方が女性76名(47.2%)よりも子どもがいる回答者の割合が高かった。



Q15. 男女別・子どもの有無

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
いる	313	59.7	236	66.1	76	47.2	0	0.0	1	33.3
いない	211	40.3	121	33.9	85	52.8	3	100.0	2	66.7
合計	524	100.0	357	100.0	161	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	524	99.1	357	67.5	161	30.4	3	0.6	3	0.6
無回答	5	0.9	0	0.0	1	0.2	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ 子どもの数 (Q15-1)

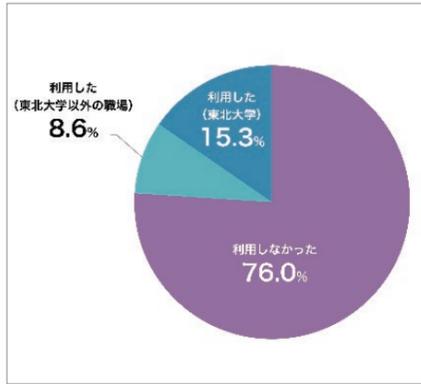
子どもの数を聞いたところ、「2人」と回答した者が最も多かった(145名[46.3%])。それに「1人」125名(39.9%)、「3人」36名(11.5%)、「4人以上」7名(2.2%)が続いた。

■ 子どもの年代 (Q15-2)

全ての子どもの現在の年代を尋ねたところ、「大学生以上」の子どもを持つ回答者が100名(32.1%)と最も多かった。以下、「小学生」の子どもを持つ回答者は93名(29.8%)、「3歳以上就学前」の子どもを持つ回答者は80名(25.6%)、「0~3歳」の子どもを持つ回答者は67名(21.5%)、「高校生」の子どもを持つ回答者は39名(12.5%)、「中学生」の子どもを持つ回答者は35名(11.2%)いた。

■ 子育て支援制度の利用状況 (Q15-3)

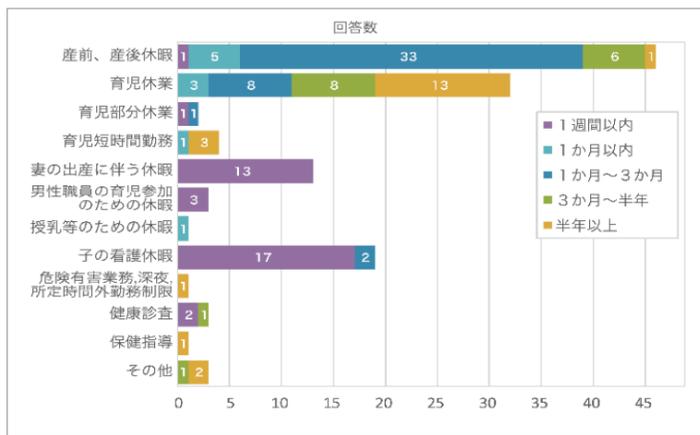
子どもが生まれた際に何らかの制度を利用したかどうかを尋ねたところ、約4分の1の75名(23.9%)の回答者しか制度を利用していなかった。うち48名(15.3%)が東北大学の制度、27名(8.6%)が東北大学以外の職場で何らかの支援制度を利用していた。



Q15-3. 制度を利用した割合

■ 子育て支援制度の利用状況と期間 (Q15-3-1)

制度を利用した回答者に具体的に利用した制度について尋ねてみたところ、利用した回答者が比較的多かったのは、「産前・産後休暇」46名(35.9%)、「育児休業」32名(25.0%)、「子の看護休暇」19名(14.8%)、「妻の出産に伴う休暇」13名(10.2%)であった。



Q15-3-1. 子育て支援制度の利用状況と期間

期間	利用者	産前、産後休暇	育児休業	育児部分休業	育児短時間勤務	妻の出産に伴う休暇	男性職員の育児参加のための休暇	授乳等のための休暇	子の看護休暇	危険有害業務、深夜、所定時間外勤務制限	健康診査	保健指導	通勤緩和	業務軽減	その他	合計(利用者)	合計(利用期間)
1週間以内	本人	1	0	1	0	13	3	0	17	0	0	2	0	0	0	37	37
	配偶者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1か月以内	本人	3	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	10
	配偶者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
1か月~3か月	本人	30	8	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	40	44
	配偶者	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	4
3か月~半年	本人	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	16
	配偶者	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	6
半年以上	本人	0	8	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	12	21
	配偶者	1	5	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	9
	合計	46	32	2	4	13	3	1	19	1	3	1	0	0	3	128	128
	%	35.9	25.0	1.6	3.1	10.2	2.3	0.8	14.8	0.8	2.3	0.8	0.0	0.0	2.3	100	100

■ 保育サービス等の利用状況 (Q15-4)

本人あるいは配偶者が定期的に利用した保育サービスについて尋ねたところ、最も多かったのは「親族による支援」の131名(41.9%)であった。保育園の中では、「認可保育園」が115名(36.7%)と最も多く、「民間の保育園」は77名(24.6%)、「勤務先保育園」は28名(8.9%)であった。「学童保育」は72名(23.0%)が利用しており、「ベビーシッター」30名(9.6%)、「ファミリーサポート」19名(6.1%)であった。

回答	回答数	%
認可保育園	115	36.7
民間の保育園	77	24.6
勤務先保育園	28	8.9
ベビーシッター	30	9.6
学童保育	72	23.0
ファミリーサポート	19	6.1
親族による支援	131	41.9
無回答	74	23.6
回答数合計	472	
回答者数	313	

(複数回答より)

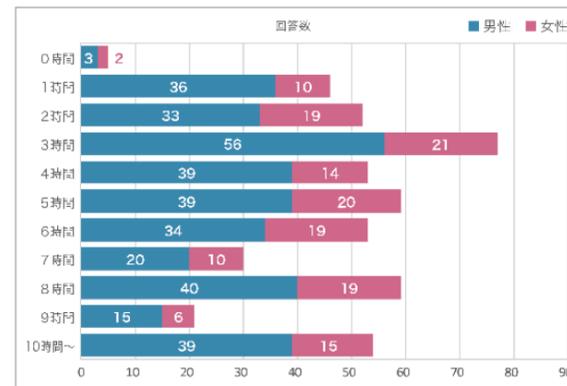
2-4-3. 時間の使い方について

■ 平日の時間配分 (Q16)

平日に研究、教育、運営、診療、家事・育児・介護に費やす時間を尋ねた。1日に研究に費やす時間として最も多いのは「3時間」78名(15.2%)であった。以下、「5時間」、「8時間」と続く。1日に教育に費やす時間として最も多いのは「2時間」126名(25.0%)であった。以下、「1時間」、「3時間」と続く。1日に運営に費やす時間として最も多いのは「1時間」145名(29.2%)であった。以下、「2時間」、「0時間」と続く。1日に診療に費やす時間として最も多いのは「0時間」405名(93.1%)。以下、「1時間」、「3時間」と続く。1日に「家事・育児・介護」に費やす時間として最も多いのは「1時間」168名(34.1%)。以下、「2時間」、「0時間」と続く。

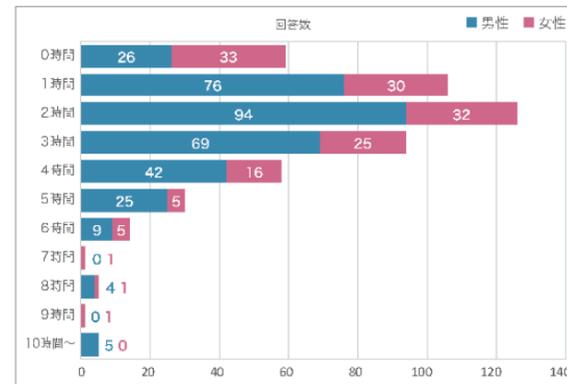
男女別に平日の時間配分を見たところ、「家事・育児・介護」に関してははっきりとした男女比が現れた。男性は「1時間」139名(41.4%)が最も多く、「0時間」75名(22.3%)と合わせて1時間以内の回答者が63.7%を占めるのに対し、女性の場合、2時間以上の回答者が占める割合が73.2%であった。女性の「家事・育児・介護」時間として最も多いのは「2時間」33名(21.6%)であり、「3時間」27名(17.6%)や「5時間」19名(12.4%)なども相当数いた。

Q16. 男女別・平日の時間配分



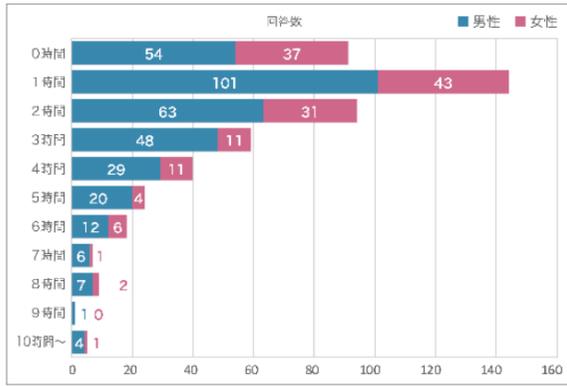
回答	全体		男		女		回答しない	性別無記入
	回答数	%	回答数	%	回答数	%		
0時間	5	1.0	3	0.8	2	1.3	0	0.0
1時間	47	9.2	36	10.2	10	6.5	1	50.0
2時間	52	10.1	33	9.3	19	12.3	0	0.0
3時間	78	15.2	56	15.8	21	13.5	1	50.0
4時間	53	10.3	39	11.0	14	9.0	0	0.0
5時間	59	11.5	39	11.0	20	12.9	0	0.0
6時間	53	10.3	34	9.6	19	12.3	0	0.0
7時間	30	5.8	20	5.6	10	6.5	0	0.0
8時間	61	11.9	40	11.3	19	12.3	0	0.0
9時間	21	4.1	15	4.2	6	3.9	0	0.0
10時間以上	54	10.5	39	11.0	15	9.7	0	0.0
合計	513	100.0	354	100.0	155	100.0	2	100.0
有効回答	513	97.0	354	66.9	155	29.3	2	0.4
無回答	16	3.0	3	0.6	7	1.3	1	0.2
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6

研究



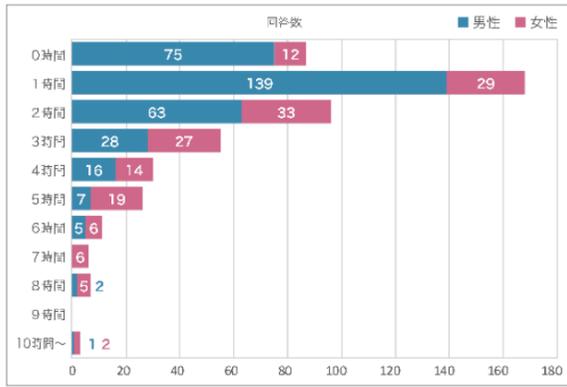
回答	全体		男		女		回答しない	性別無記入
	回答数	%	回答数	%	回答数	%		
0時間	60	11.9	26	7.4	33	22.1	0	0.0
1時間	107	21.3	76	21.7	30	20.1	0	0.0
2時間	126	25.0	94	26.9	32	21.5	0	0.0
3時間	95	18.9	69	19.7	25	16.8	1	50.0
4時間	58	11.5	42	12.0	16	10.7	0	0.0
5時間	31	6.2	25	7.1	5	3.4	1	50.0
6時間	14	2.8	9	2.6	5	3.4	0	0.0
7時間	1	0.2	0	0.0	1	0.7	0	0.0
8時間	5	1.0	4	1.1	1	0.7	0	0.0
9時間	1	0.2	0	0.0	1	0.7	0	0.0
10時間以上	5	1.0	5	1.4	0	0.0	0	0.0
合計	503	100.0	350	100.0	149	100.0	2	100.0
有効回答	503	95.1	350	66.2	149	28.2	2	0.4
無回答	26	4.9	7	1.3	13	2.5	1	0.2
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6

教育



回答	全体	男	女	回答しない	性別無記入			
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	93	18.8	54	15.7	37	25.2	0	0.0
1時間	145	29.2	101	29.3	43	29.3	1	50.0
2時間	94	19.0	63	18.3	31	21.1	0	0.0
3時間	59	11.9	48	13.9	11	7.5	0	0.0
4時間	41	8.3	29	8.4	11	7.5	1	50.0
5時間	24	4.8	20	5.8	4	2.7	0	0.0
6時間	18	3.6	12	3.5	6	4.1	0	0.0
7時間	7	1.4	6	1.7	1	0.7	0	0.0
8時間	9	1.8	7	2.0	2	1.4	0	0.0
9時間	1	0.2	1	0.3	0	0.0	0	0.0
10時間以上	5	1.0	4	1.2	1	0.7	0	0.0
合計	496	100.0	345	100.0	147	100.0	2	100.0
有効回答	496	93.8	345	65.2	147	27.8	2	0.4
無回答	33	6.2	12	2.3	15	2.8	1	0.2
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6

運営



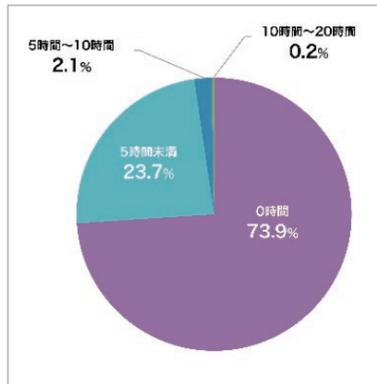
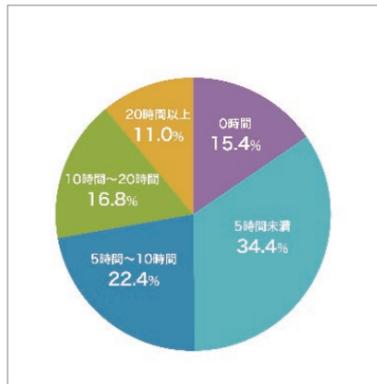
回答	全体	男	女	回答しない	性別無記入			
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	89	18.1	75	22.3	12	7.8	1	50.0
1時間	168	34.1	139	41.4	29	19.0	0	0.0
2時間	97	19.7	63	18.8	33	21.6	1	50.0
3時間	55	11.2	28	8.3	27	17.6	0	0.0
4時間	30	6.1	16	4.8	14	9.2	0	0.0
5時間	27	5.5	7	2.1	19	12.4	0	0.0
6時間	11	2.2	5	1.5	6	3.9	0	0.0
7時間	6	1.2	0	0.0	6	3.9	0	0.0
8時間	7	1.4	2	0.6	5	3.3	0	0.0
9時間	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10時間以上	3	0.6	1	0.3	2	1.3	0	0.0
合計	493	100.0	336	100.0	153	100.0	2	100.0
有効回答	493	93.2	336	63.5	153	28.9	2	0.4
無回答	36	6.8	21	4.0	9	1.7	1	0.2
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6

家事・育児・介護

■ 昨年度の教育・会議等への出席・研究について (Q17)

■ 昨年度の教育活動 (Q17-1)

教育活動について、昨年度の1週間あたりの平均した「授業・実習」担当時間を尋ねたところ、総じて「0時間」から「5時間未満」と短く、比較的「学生の研究指導に費やす時間」が長い傾向にあった。「授業・実習」に費やす時間は、「0時間」が138名(27.8%)、「5時間未満」が248名(50%)と5時間未満が4分の3を占める。一方で、「5時間以上10時間未満」が83名(16.7%)と、少ないことが判明した。これに対し「学生の研究指導」に費やす時間については、「0時間」が77名(15.4%)、「5時間未満」が172名(34.4%)であったが、5時間以上が約2分の1であった。「他大学の非常勤講師」は「0時間」が352名(73.9%)、「5時間未満」が113名(23.7%)で、5時間未満がほとんどであった。



授業・実習等

学生の研究指導等

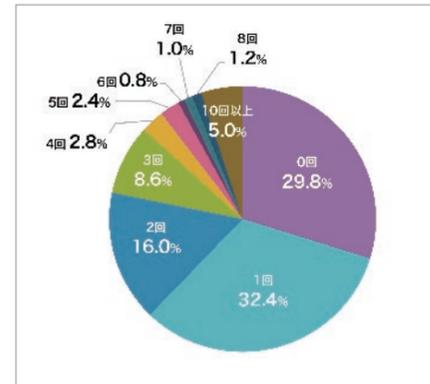
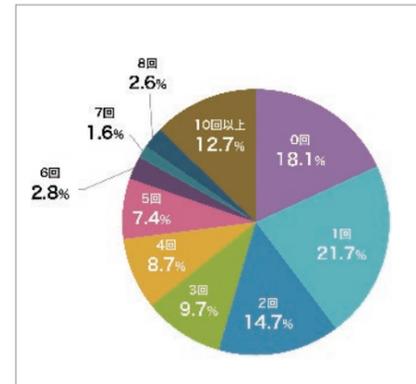
他大学の非常勤講師

Q17-1. 昨年度の教育活動

■ 昨年度の会議等への出席等 (Q17-2)

昨年度の「学内の会議・委員会等への出席」について、月あたりの平均回数を尋ねたところ、「2回未満」の回答者(内訳:0回91名[18.1%]、1回109名[21.7%]、2回74名[14.7%]、合計54.5%)が多くを占めるのに対し、「10回以上」と答えた回答者も64名(12.7%)と相当数いた。

昨年度の「学外の会議・委員会等への出席」について、月あたりの平均した回数を尋ねたところ、大半の回答者は「2回未満」しか出席していなかった(内訳:0回149名[29.8%]、1回162名[32.4%]、2回80名[16%]、合計78.2%)が、「10回以上」と答えた回答者も相当数いた。このことから、会議等への出席負担は両極化していることが分かる。



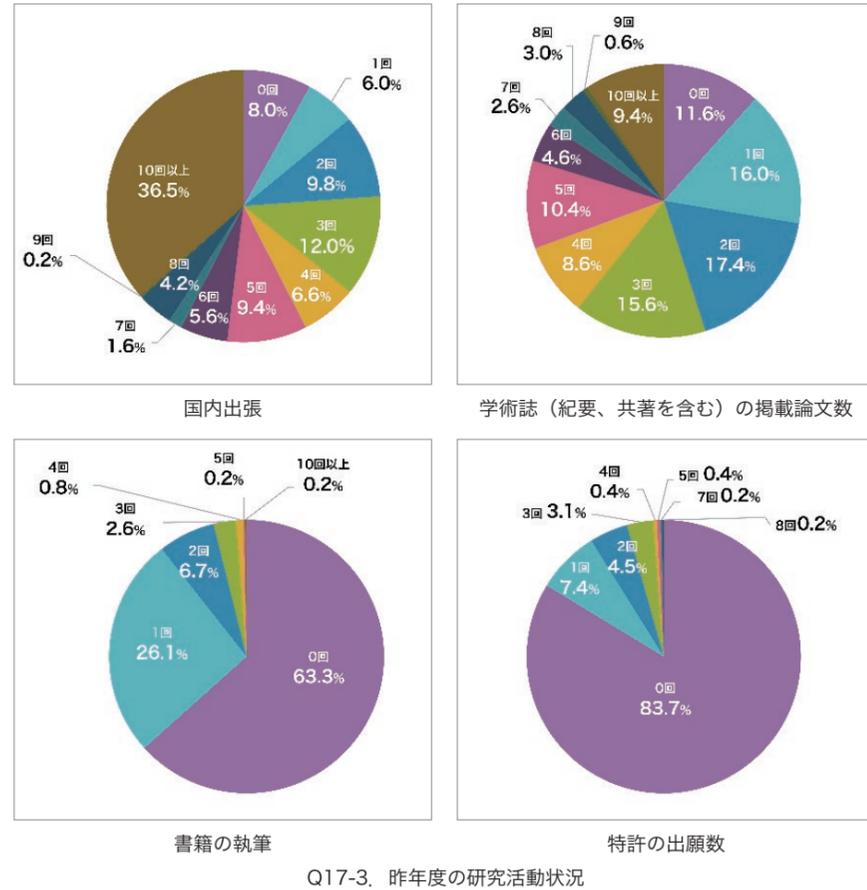
学内の会議・委員会等への出席

学外の会議・委員会等への出席

Q17-2. 昨年度の会議等への出席等

■ 昨年度の研究活動状況 (Q17-3)

昨年度1年間の「研究活動に関する国内出張」について、「10回以上」182名(36.5%)が最も多い。平成27年度1年間の「学術誌等への掲載論文数等」については、「2件」87名(17.4%)が最も多かった。続いて「1件」80名(16%)、「3件」78名(15.6%)、「0件」58名(11.6%)、「5件」52名(10.4%)、「10件以上」47名(9.4%)、「4件」43名(8.6%)が多く、0～5件の間で分散していた。昨年度1年間の「書籍の執筆」については、「0件」が311名(63.3%)と過半数を占めた。それに「1件」128名(26.1%)、「2件」33名(6.7%)と続いた。昨年度1年間の「特許の出願数」は、「0件」が406名(83.7%)とほとんどであった。「1件」36名(7.4%)、「2件」22名(4.5%)がこれに続いた。

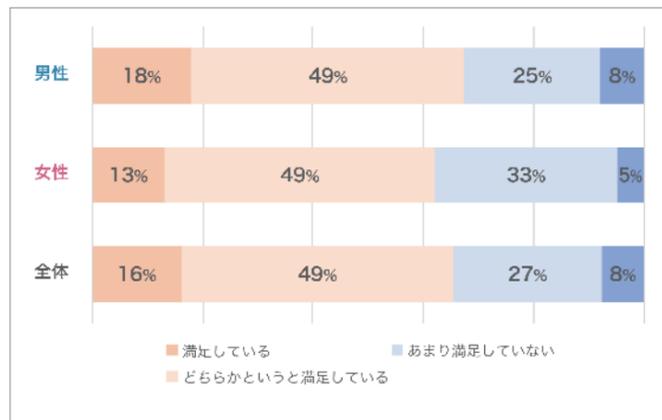


Q17-3. 昨年度の研究活動状況

2-4-4. ワークライフバランスについて

■ ワークライフバランスへの満足度 (Q18)

現在の生活のワークライフバランスへの満足度を尋ねたところ、「満足している」85名(16.3%)もしくは「どちらかという満足している」256名(49.0%)と回答した者が341名(64.5%)と過半数を超え、満足している回答者が多い。「あまり満足していない」141名(27%)あるいは「全く満足していない」40名(7.7%)を選択した回答者は少数派であった。「あまり満足していない」あるいは「全く満足していない」を選択した回答者は、男性で116名(32.6%)、女性では61名(37.9%)であり、男女間に大きな差は見られなかった。



Q18. 男女別ワークライフバランスへの満足度

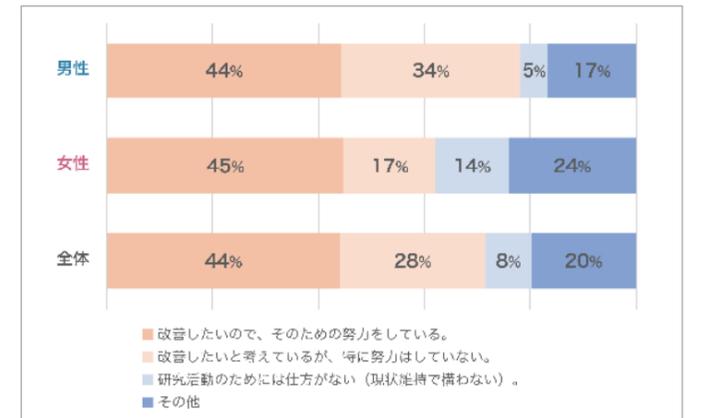
「あまり満足していない」あるいは「全く満足していない」を選択した回答者に、その理由を尋ねたところ、主な理由として以下のことがあげられた。

- ・研究にもっと時間をかけたいが、家庭もあるので難しい
 - ・雑用が多く、研究時間が確保できないため
 - ・寝る時間がない。家に帰る時間がない。
- (自由記述より抜粋。回答の詳細は巻末の「3. 資料」を参照。)

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
満足している	85	16.3	64	18.0	21	13.0	0	0.0	0	0.0
どちらかという満足している	256	49.0	176	49.4	79	49.1	0	0.0	1	50.0
あまり満足していない	141	27.0	88	24.7	53	32.9	0	0.0	0	0.0
全く満足していない	40	7.7	28	7.9	8	5.0	3	100.0	1	50.0
合計	522	100.0	356	100.0	161	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	522	98.7	356	67.3	161	30.4	3	0.6	2	0.4
無回答	7	1.3	1	0.2	1	0.2	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

■ ワークライフバランスへの現状への考え (Q18-2)

更に、ワークライフバランスに満足していない回答者に現状をどう考えているかを尋ねたところ、78名(44.1%)は「改善したいので、そのための努力をしている。」と回答し、「改善したいと考えているが、特に努力はしていない。」と回答した49名(27.7%)、「研究活動のためには仕方がない。」と回答した15名(8.5%)を上回った。男女別に見たところ、男性の方が「改善したいと考えているが、特に努力はしていない。」と回答した者の割合が女性の10名(17.2%)に対して39名(33.9%)と、高い傾向にあった。



Q18-2. 男女別ワークライフバランスの現状への考え

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
改善したいので、そのための努力をしている	78	44.1	51	44.3	26	44.8	1	33.3	0	0.0
改善したいと考えているが、特に努力はしていない	49	27.7	39	33.9	10	17.2	0	0.0	0	0.0
研究活動のためには仕方がない (現状維持で構わない)	15	8.5	6	5.2	8	13.8	0	0.0	1	100.0
その他	35	19.8	19	16.5	14	24.1	2	66.7	0	0.0
合計	177	100.0	115	100.0	58	100.0	3	100.0	1	100.0
有効回答	177	33.5	115	21.7	58	11.0	3	0.6	1	0.2
無回答	352	66.5	242	45.7	104	19.7	0	0.0	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

ワークライフバランスに満足していない状況を改善するためにどうしたらよいと思うか、またどのような努力をしているか意見を尋ねた。

個人的な対応については、以下のことがあげられた。

- ・単身赴任の解消
- ・効率的に仕事を進めるように心がける

大学がとるべき対策として、以下のことがあげられた。

- ・大学の運営、事務的な仕事が、非効率で無駄が多すぎるので、無駄を削減する。
- ・若手の雑用を少なくする。
- ・子育てに関するサポートの充実

(自由記述より抜粋。回答の詳細は巻末の「3. 資料」を参照。)

2-5 男女共同参画・女性研究者支援

■ 回答者自身の男女共同参画・研究者支援に関する取組 (Q19)

回答者自身の男女共同参画・研究者支援に関する取組として該当するもの全てを選んでもらったところ、「学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。」が最も多く143名(27.0%)であった。「学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。」も76名(14.4%)が選んでおり、男女共同参画・女性研究者支援への取組の中では、学内外の男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに積極的に参加している様子がうかがわれる。

回答	回答数	%
東北大学(研究科内も含む)の男女共同参画担当委員を経験したことがある。	66	12.5
学外(学会・公的機関等)の男女共同参画担当委員を経験したことがある。	21	4.0
学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として携わったことがある。	47	8.9
学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。	143	27.0
学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として携わったことがある。	30	5.7
学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。	76	14.4
男女共同参画に関わる支援を受けたことがある。	69	13.0
その他	4	0.8
該当しない・参画したことがない	22	4.2
無回答	284	53.7
回答数合計	762	
回答者数	245	

■ 東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関する知識と参加状況 (Q20~Q24)

東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関する知識と参加状況について、推進体制(Q20)、両立支援・環境整備(Q21)、女性リーダー育成(Q22)、次世代育成(Q23)、広報(Q24)について尋ねた。

■ 推進体制 (Q20)

男女共同参画委員会、男女共同参画推進センター、東北大学における男女共同参画推進のための行動指針について知っているかどうかを答えてもらったところ、339名(64.1%)、322名(60.9%)、219名(41.4%)が知っていると回答した。

■ 両立支援・環境整備 (Q21)

本学の保育施設について利用したことがあるかどうかについて尋ねたところ、川内けやき保育園24名(4.8%)、星の子保育園4名(0.8%)、星の子ルーム(病後児保育)23名(4.9%)が利用経験があると回答した。両立支援・環境整備の制度について尋ねたところ、研究支援要員20名(4.2%)、ベビーシッター利用料等補助21名(4.4%)が利用したことがあると答えた。TUMUG Caféには27名(5.4%)が参加したことがあると回答した。

■ 女性リーダー育成 (Q22)

女性リーダー育成を目的とした制度について利用したことがあるかどうかを尋ねたところ、リーダー研究支援要員4名(0.8%)、スタートアップ研究費30名(6.2%)、研究スキルアップ経費26名(5.4%)、「科

学研究費助成事業」フォローアップ31名(6.5%)となった。平成21年度から年数回開催している沢柳フェローランチミーティングに参加したことがあるのは26名(5.3%)、平成27年度に開始したTUMUG Forum(女性研究者研究発表・交流会)に参加したことがあるのは31名(6.3%)となった。

■ 次世代育成 (Q23)

サイエンス・エンジェルに自身、あるいは指導する学生が参加したことがあるとした回答者数は86名(17.2%)となった。仙台Iゾンタクラブ 東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業に自身、あるいは指導する学生が採択されたことがあるとした回答者は8名(1.7%)となった。

■ 広報 (Q24)

平成14年度から毎年1回開催している「男女共同参画シンポジウム」に参加したことがあるのは127名(24.8%)、平成26年から年数回発行して全教職員に配布している「TUMUG ニュースレター」を読んだことがあるのは289名(56.4%)に上った。

■ 東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に対する意見・要望 (Q25)

最後に、東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関する意見・要望を尋ねたところ、以下のことがあげられた。

- ・助教以上の正式な職についている研究者よりも、家庭の状況などで東北大で働くために、支援研究者などの形で働いている人も多い。いろいろな支援を正職の人で限定せず、門戸を開いて、業績や状況で採択して欲しい。
- ・育児・介護に積極的な男性研究者への支援。
- ・Spouse Employment, Spousal hire 日本ではあまり例がありませんが、海外の大学ではしばしば耳にします。そういう制度があると研究者の別居婚解消に役立ちますし、優秀な研究者の獲得にも貢献があるのではないのでしょうか。
(自由記述より抜粋。回答の詳細は巻末の「3. 資料」を参照。)

本調査は研究に従事している東北大学の教職員を対象とし、平成29年2月1日から2月12日に、Web上アンケートとして実施された。全対象者4592名の内、529名より回答を得て、回答率は11.5%であった。回答者の約7割が男性、女性は約3割であった。

研究キャリアに関する質問で、今までに研究者としてのキャリアを離れた経験があるかどうか尋ねたところ「ある」とした回答者の割合は、女性では29.7%、男性の場合は9.6%であり、女性が男性を上回った。研究者としてキャリアを形成していくことを希望する者が大半であり、4分の1以上の回答者が東北大学で働き続けることを希望していることも明らかとなった。

生活面に関する質問では、「配偶者（パートナー）がいない」回答者の割合は、男性16.8%に対して女性は34%と高く、「配偶者と別居」の回答者の割合も、男性17.8%に対して女性の方が33.0%と高かった。「配偶者の職業」については、男性の約半数が「無職」とした一方で、女性は「国公立大学・公的機関研究者」を配偶者に持つ割合が約半数を占めた。また「子どもがいる割合」は、男性66.1%に対して女性は47.2%であり、男性の方が高かった。

平日の時間配分として「家事・育児・介護」に関しては、男性は「1時間以内」の回答者が63.7%を占めるのに対し、女性の場合「2時間以上」の回答者が73.2%であった。以上を合わせると、男性と比較して女性研究者は「単身率が高く、子どものいる割合が少ない」ことが判明したものの、一方で「家事・育児・介護」にかかる時間の平均は女性の方が長い、という実態が明らかとなった。このため、女性研究者は未だ研究活動にあたり、家庭運営や生活面での高いハードルを抱えていることが予想される。

子どもが生まれた際に何らかの制度を利用したかという設問では、約4分の1の回答者しか制度を利用していないことが明らかとなった。また、本人あるいは配偶者が定期的に利用した保育サービスについて最も多かったのは「親族による支援」の41.9%であった。これらの結果から、今後もさらなる両立支援制度の周知ならびに拡充が期待されるものと考えられる。

東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業については、知名度ならびに参加・利用割合、ともに未だ低い状況にあることが判明した。このため、さらに広報活動を充実させていく必要がある。また自由記述では、東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関して数多くの意見・要望が寄せられた。将来的に、これらの意見を有効に活用しながら、男女共同参画推進事業を展開する必要がある。

研究者を対象にした研究環境に関するアンケート調査

東北大学の研究者の皆様におかれましては、日頃より男女共同参画に関する業務について、ご支援ご協力をいただきありがとうございます。

さて、本学は、これまでに文部科学省の女性研究者支援事業による支援や総長裁量経費「男女共同参画・女性研究者支援事業」により女性研究者に焦点を当てた支援を実施してきました。この度、平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択され、平成28年度から6年間にわたり「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」を推進することになりました。

つきましては、研究者の皆様の研究環境の実態を明らかにし、今後の事業実施に生かしていきたいと思っております。お忙しい中を恐縮ですが、本アンケート調査にご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

平 29 年 2 月 1 日
理事（総務・国際展開・事務総括担当）
男女共同参画センター長
植木 俊哉

回答上の注意

・ご回答は以下のウェブサイトから入力して下さい（回答期間：2月1日（水）～2月12日（日））。

<https://goo.gl/forms/Uyqw1SQ5rHuV8GKM2>

・特に指示のない限り、回答は選択肢から1つを選んで回答してください。

・「その他」等の選択肢では、具体的な内容を記入してください。

・調査結果は、回答者が特定されないように統計処理を行った上で公表いたします。自由記載欄については、個人を特定できない形で男女共同参画委員会報告書等に転記させていただくことがあります。ご了承ください。

アンケート対象者は以下の方々です。

本学教職員のうち以下に掲げる者（非常勤を含む）

教授、准教授、講師、助教、助手

特任教授（教育・研究）、特任准教授（教育・研究）、特任講師（教育・研究）、特

任助教（研究）、助手

その他、研究を主な職務とする職員

3-2 調査項目一覧・基礎集計表

セクションA 基礎事項

Q1. 性別をお答えください。

1. 男
2. 女
3. 回答しない

回答	回答数	%
男	357	67.5
女	162	30.6
回答しない	3	0.6
無回答	7	1.3
合計	529	100.0

Q2. 2017年2月1日における年齢をお答えください。

1. 24歳以下
2. 25-29歳
3. 30-34歳
4. 35-39歳
5. 40-44歳
6. 45-49歳
7. 50-54歳
8. 55-59歳
9. 60歳以上

回答	回答数	%
24歳以下	4	0.8
25-29歳	23	4.4
30-34歳	89	17.0
35-39歳	102	19.5
40-44歳	85	16.2
45-49歳	68	13.0
50-54歳	58	11.1
55-59歳	48	9.2
60歳以上	47	9.0
合計	524	100.0
有効回答	524	99.1
無回答	5	0.9
総合計	529	100.0

Q3. 現在の職名をお答えください。

1. 教授（特任を含む）
2. 准教授（特任を含む）
3. 講師（特任を含む）
4. 助教（特任を含む）
5. 助手
6. その他

回答	回答数	%
教授（特任を含む）	131	26.5
准教授（特任を含む）	120	24.3
講師（特任を含む）	16	3.2
助教（特任を含む）	170	34.4
助手	21	4.3
RA	1	0.2
テクニシャン	1	0.2
ポスドク	1	0.2
事務補佐員	1	0.2
技術補佐	2	0.4
技術補佐員	6	1.2
教育研究支援者	3	0.6
日本学術振興会特別研究員	1	0.2
産学官連携研究員	5	1.0
研究員	4	0.8
研究支援者	7	1.4
研究支援者（ポスドク）	1	0.2
補助員	1	0.2
非常勤職員（産学官連携研究員）	1	0.2
その他	1	0.2
合計	494	100.0
有効回答	494	93.4
無回答	35	6.6
総合計	529	100.0

Q4. 現在の雇用形態をお答えください。

1. 常勤（任期なし）
2. 常勤（任期あり）
3. 非常勤
4. その他

回答	回答数	%
常勤（任期なし）	236	45.6
常勤（任期あり）	244	47.1
非常勤	35	6.8
その他	3	0.6
合計	518	100.0
有効回答	518	97.9
無回答	11	2.1
総合計	529	100.0

Q4-1. 任期はどのくらいですか？

1. 1年未満
2. 1年以上2年未満
3. 2年以上3年未満
4. 3年以上4年未満
5. 4年以上

回答	回答数	%
1年未満	16	6.6
1年以上2年未満	28	11.5
2年以上3年未満	31	12.8
3年以上4年未満	36	14.8
4年以上	132	54.3
合計	243	100.0
有効回答	243	45.9
無回答	286	54.1
総合計	529	100.0

Q5. あなたの最終学歴をお答えください。

1. 博士修了（博士課程・博士後期課程）
2. 修士修了（修士課程・博士前期課程・専門職学位課程）
3. 学部卒業
4. その他

回答	回答数	%
博士修了（博士課程・博士後期課程）	406	78.5
修士修了（修士課程・博士前期課程・専門職学位課程）	74	14.3
学部卒業	33	6.4
その他	4	0.8
合計	517	100.0
有効回答	517	97.7
無回答	12	2.3
総合計	529	100.0

Q6. あなたの研究分野をお答えください。

1. 人文・社会科学系
2. 理学・工学系
3. 農学・生命科学系
4. 医歯薬学・保健系
5. その他

回答	回答数	%
人文・社会科学系	127	24.5
理学・工学系	236	45.6
農学・生命科学系	66	12.7
医歯薬学・保健系	88	17.0
その他	1	0.2
合計	518	100.0
有効回答	518	97.9
無回答	11	2.1
総合計	529	100.0

Q7. 勤務しているキャンパスをお答えください。

1. 片平
2. 青葉山北キャンパス（理学研究科、薬学研究科、情報科学研究科、学際科学フロンティア研究所など）
3. 青葉山東キャンパス（工学研究科など）
4. 青葉山新キャンパス（災害科学国際研究所、環境科学研究科、農学研究科など）
5. 星陵
6. 川内
7. 雨宮
8. その他

回答	回答数	%
片平	135	25.9
青葉山北キャンパス	85	16.3
青葉山東キャンパス	58	11.1
青葉山新キャンパス	41	7.9
星陵	74	14.2
川内	118	22.6
雨宮	4	0.8
その他	6	1.2
合計	521	100.0
有効回答	521	98.5
無回答	8	1.5
総合計	529	100.0

Q8. あなたの所属部局についてお答えください。

1. 文学部・文学研究科
2. 教育学部・教育学研究科
3. 法学部・法学研究科
4. 経済学部・経済学研究科
5. 理学部・理学研究科
6. 医学部・医学系研究科
7. 歯学部・歯学研究科
8. 薬学部・薬学研究科
9. 工学部・工学研究科
10. 農学部・農学研究科
11. 国際文化研究科
12. 情報科学研究科
13. 生命科学研究科
14. 環境科学研究科
15. 医工学研究科
16. 教育情報学研究部
17. 金属材料研究所
18. 加齢医学研究所
19. 流体科学研究所
20. 電気通信研究所
21. 多元物質科学研究所
22. 災害科学国際研究所
23. 東北アジア研究センター
24. 病院
25. 高度教養教育・学生支援機構
26. その他

回答	回答数	%
文学部・文学研究科	28	5.5
教育学部・教育学研究科	9	1.8
法学部・法学研究科	13	2.6
経済学部・経済学研究科	13	2.6
理学部・理学研究科	25	4.9
医学部・医学系研究科	30	5.9
歯学部・歯学研究科	3	0.6
薬学部・薬学研究科	28	5.5
工学部・工学研究科	46	9.1
農学部・農学研究科	37	7.3
国際文化研究科	13	2.6
情報科学研究科	12	2.4
生命科学研究科	19	3.8
環境科学研究科	14	2.8
医工学研究科	7	1.4
教育情報学研究部	9	1.8
金属材料研究所	36	7.1
加齢医学研究所	20	4.0
流体科学研究所	13	2.6
電気通信研究所	24	4.7
多元物質科学研究所	36	7.1
災害科学国際研究所	9	1.8
東北アジア研究センター	3	0.6
病院	8	1.6
高度教養教育・学生支援機構	29	5.7
その他	22	4.3
合計	506	100.0
有効回答	506	95.7
無回答	23	4.3
総合計	529	100.0

セクション B 研究キャリア

Q9. あなたの研究者としてのキャリアはどのくらいですか。

1. 5年未満
2. 5年以上10年未満
3. 10年以上15年未満
4. 15年以上20年未満
5. 20年以上30年未満
6. 30年以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
5年未満	100	19.1	48	13.5	52	32.3	0	0.0	0	0.0
5年以上10年未満	115	22.0	76	21.3	36	22.4	1	33.3	2	66.7
10年以上15年未満	68	13.0	44	12.4	23	14.3	1	33.3	0	0.0
15年以上20年未満	71	13.6	48	13.5	22	13.7	0	0.0	1	33.3
20年以上30年未満	94	18.0	77	21.6	17	10.6	0	0.0	0	0.0
30年以上	75	14.3	63	17.7	11	6.8	1	33.3	0	0.0
合計	523	100.0	356	100.0	161	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	523	98.9	356	67.3	161	30.4	3	0.6	3	0.6
無回答	6	1.1	1	0.2	1	0.2	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q10. あなたの東北大学での研究者としてのキャリアはどのくらいですか。

1. 5年未満
2. 5年以上10年未満
3. 10年以上15年未満
4. 15年以上20年未満
5. 20年以上30年未満
6. 30年以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
5年未満	195	37.6	113	31.7	79	50.0	2	66.7	1	50.0
5年以上10年未満	131	25.2	87	24.4	43	27.2	0	0.0	1	50.0
10年以上15年未満	72	13.9	54	15.2	18	11.4	0	0.0	0	0.0
15年以上20年未満	49	9.4	39	11.0	10	6.3	0	0.0	0	0.0
20年以上30年未満	51	9.8	45	12.6	6	3.8	0	0.0	0	0.0
30年以上	21	4.0	18	5.1	2	1.3	1	33.3	0	0.0
合計	519	100.0	356	100.0	158	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	519	98.1	356	67.3	158	29.9	3	0.6	2	0.4
無回答	10	1.9	1	0.2	4	0.8	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q11. 今までに研究者としてのキャリアを離れた経験はありますか。

1. ある
2. ない

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
ある	82	15.8	34	9.6	47	29.7	1	33.3	0	0.0
ない	438	84.2	322	90.4	111	70.3	2	66.7	3	100.0
合計	520	100.0	356	100.0	158	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	520	98.3	356	67.3	158	29.9	3	0.6	3	0.6
無回答	9	1.7	1	0.2	4	0.8	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q11-1. 研究者としてのキャリアを離れた期間はどのくらいですか。

- 1年未満
- 1年以上2年未満
- 2年以上3年未満
- 3年以上4年未満
- 4年以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1年未満	16	19.5	5	14.7	11	23.4	0	0.0	0	0.0
1年以上2年未満	16	19.5	7	20.6	8	17.0	1	100.0	0	0.0
2年以上3年未満	12	14.6	5	14.7	7	14.9	0	0.0	0	0.0
3年以上4年未満	6	7.3	2	5.9	4	8.5	0	0.0	0	0.0
4年以上	32	39.0	15	44.1	17	36.2	0	0.0	0	0.0
合計	82	100.0	34	100.0	47	100.0	1	100.0	0	0.0
有効回答	82	15.5	34	6.4	47	8.9	1	0.2	0	0.0
無回答	447	84.5	323	61.1	115	21.7	2	0.4	7	1.3
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q11-2. キャリアを離れた理由はなんですか。

1. 結婚
2. 出産
3. 育児
4. その他

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
結婚	5	9.1	0	0.0	5	15.2	0	0.0	0	0.0
出産	14	25.5	0	0.0	14	42.4	0	0.0	0	0.0
育児	3	5.5	0	0.0	3	9.1	0	0.0	0	0.0
その他	33	60.0	22	100.0	11	33.3	0	0.0	0	0.0
合計	55	100.0	22	100.0	33	100.0	0	0.0	0	0.0
有効回答	55	10.4	22	4.2	33	6.2	0	0.0	0	0.0
無回答	474	89.6	335	63.3	129	24.4	3	0.6	7	1.3
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q12. あなたは現在の研究（仕事）にやりがいや満足感を感じていますか？

1. 感じている
2. 感じていない

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
感じている	475	90.6	330	92.4	141	87.0	2	66.7	2	100.0
感じていない	49	9.4	27	7.6	21	13.0	1	33.3	0	0.0
合計	524	100.0	357	100.0	162	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	524	99.1	357	67.5	162	30.6	3	0.6	2	0.4
無回答	5	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q12-1. どのようなことにやりがいや満足感を感じますか？

自由回答

回答	回答数	%
有効回答	230	43.5
無回答	299	56.5
総合計	529	100.0

Q12-2. 研究（仕事）がどのようになればやりがいや満足感があるとお考えですか？

自由回答

回答	回答数	%
有効回答	34	6.4
無回答	495	93.6
総合計	529	100.0

Q13. あなたは、今後のキャリアについてどのようにお考えですか？

1. 東北大学で研究者としてキャリアアップしたい
2. 他の職場（海外含む）でも構わないが、研究者としてキャリアアップしたい
3. 研究者としてのキャリアを生かし、他の職種へ転職したい
4. キャリアアップにこだわらず、東北大学で研究を続けたい
5. キャリアアップや研究機関にはこだわらず、研究を続けたい
6. 特に決めていない
7. その他

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
東北大学で研究者としてキャリアアップしたい	105	20.4	78	22.0	27	17.4	0	0.0	0	0.0
他の職場（海外含む）でも構わないが、研究者としてキャリアアップしたい	200	38.8	145	40.8	54	34.8	0	0.0	1	50.0
研究者としてのキャリアを生かし、他の職種へ転職したい	15	2.9	7	2.0	8	5.2	0	0.0	0	0.0
キャリアアップにこだわらず、東北大学で研究を続けたい	36	7.0	20	5.6	16	10.3	0	0.0	0	0.0
キャリアアップや研究機関にはこだわらず、研究を続けたい	79	15.3	53	14.9	24	15.5	2	66.7	0	0.0
特に決めていない	63	12.2	41	11.5	21	13.5	0	0.0	1	50.0
その他	17	3.3	11	3.1	5	3.2	1	33.3	0	0.0
合計	515	100.0	355	100.0	155	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	515	97.4	355	67.1	155	29.3	3	0.6	2	0.4
無回答	14	2.6	2	0.4	7	1.3	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

セクションC ライフ関連

Q14. 現在、配偶者（パートナー）はいますか。

1. いる
2. いない

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
いる	404	77.1	297	83.2	106	65.8	0	0.0	1	33.3
いない	120	22.9	60	16.8	55	34.2	3	100.0	2	66.7
合計	524	100.0	357	100.0	161	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	524	99.1	357	67.5	161	30.4	3	0.6	3	0.6
無回答	5	0.9	0	0.0	1	0.2	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q14-1. 現在、配偶者の方と同居していますか。

1. 同居
2. 別居（単身赴任）
3. 別居（親族と同居等、単身赴任以外）

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
同居	316	78.2	244	82.2	71	67.0	0	0.0	1	100.0
別居（単身赴任）	84	20.8	51	17.2	33	31.1	0	0.0	0	0.0
別居（親族と同居等、単身赴任以外）	4	1.0	2	0.7	2	1.9	0	0.0	0	0.0
合計	404	100.0	297	100.0	106	100.0	0	0.0	1	100.0
有効回答	404	76.4	297	56.1	106	20.0	0	0.0	1	0.2
無回答	125	23.6	60	11.3	56	10.6	3	0.6	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q14-2. 配偶者の方の職業をお答えください。

1. 国公立大学・公的機関研究者
2. 私立大学・民間機関（企業）の研究者
3. その他公務員
4. その他会社員
5. 学生・大学院生
6. 無職
7. その他

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
国公立大学・公的機関研究者	72	18.6	20	7.0	51	50.0	0	0.0	1	100.0
私立大学・民間機関（企業）の研究者	15	3.9	7	2.5	8	7.8	0	0.0	0	0.0
その他公務員	29	7.5	22	7.7	7	6.9	0	0.0	0	0.0
その他会社員	92	23.8	65	22.9	27	26.5	0	0.0	0	0.0
学生・大学院生	2	0.5	1	0.4	1	1.0	0	0.0	0	0.0
無職	142	36.7	141	49.6	1	1.0	0	0.0	0	0.0
その他	35	9.0	28	9.9	7	6.9	0	0.0	0	0.0
合計	387	100.0	284	100.0	102	100.0	0	0.0	1	100.0
有効回答	387	73.2	284	53.7	102	19.3	0	0.0	1	0.2
無回答	142	26.8	73	13.8	60	11.3	3	0.6	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q14-3. 配偶者の方は東北大学の教職員・学生ですか。

1. はい
2. いいえ

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
はい	61	15.1	27	9.1	33	31.1	0	0.0	1	100.0
いいえ	343	84.9	270	90.9	73	68.9	0	0.0	0	0.0
合計	404	100.0	297	100.0	106	100.0	0	0.0	1	100.0
有効回答	404	76.4	297	56.1	106	20.0	0	0.0	1	0.2
無回答	125	23.6	60	11.3	56	10.6	3	0.6	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q15. お子さんはいますか。

1. いる
2. いない

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
いる	313	59.7	236	66.1	76	47.2	0	0.0	1	33.3
いない	211	40.3	121	33.9	85	52.8	3	100.0	2	66.7
合計	524	100.0	357	100.0	161	100.0	3	100.0	3	100.0
有効回答	524	99.1	357	67.5	161	30.4	3	0.6	3	0.6
無回答	5	0.9	0	0.0	1	0.2	0	0.0	4	0.8
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q15-1. お子さんは何人ですか。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1人	125	39.9	90	38.1	35	46.1	0	0.0	0	0.0
2人	145	46.3	109	46.2	36	47.4	0	0.0	0	0.0
3人	36	11.5	30	12.7	5	6.6	0	0.0	1	100.0
4人以上	7	2.2	7	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	313	100.0	236	100.0	76	100.0	0	0.0	1	100.0
有効回答	313	59.2	236	44.6	76	14.4	0	0.0	1	0.2
無回答	216	40.8	121	22.9	86	16.3	3	0.6	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q15-2. 現在のお子さんの年代をお答え下さい。

1. 0～3歳
2. 3歳以上就学前
3. 小学生
4. 中学生
5. 高校生
6. 大学生以上

回答	回答数	%
0～3歳	67	21.5
3歳以上就学前	80	25.6
小学生	93	29.8
中学生	35	11.2
高校生	39	12.5
大学生以上	100	32.1
無回答	1	0.3
回答数合計	415	
回答者数	312	

Q15-3. お子さんが生まれた際に何らかの制度を利用しましたか。

1. 利用しなかった
2. 利用した（東北大学）
3. 利用した（東北大学以外の職場）

回答	回答数	%
利用しなかった	238	76.0
利用した（東北大学以外の職場）	27	8.6
利用した（東北大学）	48	15.3
合計	313	100.0
有効回答	313	59.2
無回答	216	40.8
総合計	529	100.0

Q15-3-1. 利用した制度・利用期間・利用者

【1】利用した制度

1. 産前、産後休暇
2. 育児休業
3. 育児部分休業
4. 育児短時間勤務
5. 妻の出産に伴う休暇
6. 男性職員の育児参加のための休暇
7. 授乳等のための休暇
8. 子の看護休暇
9. 危険有害業務、深夜、所定時間外勤務制限
10. 健康診査
11. 保健指導
12. 通勤緩和
13. 業務軽減
14. その他

【2】利用期間

1. 1週間以内
2. 1か月以内
3. 1か月～3か月
4. 3か月～半年
5. 半年以上

【3】利用者

1. 本人
2. 配偶者

期間	利用者	産前、産後休暇	育児休業	育児部分休業	育児短時間勤務	妻の出産に伴う休暇	男性職員の育児参加のための休暇	授乳等のための休暇	子の看護休暇	危険有害業務、深夜、所定時間外勤務制限	健康診査	保健指導	通勤緩和	業務軽減	その他	合計（利用者）	合計（利用期間）
1週間以内	本人	1	0	1	0	13	3	0	17	0	2	0	0	0	0	37	37
	配偶者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1か月以内	本人	3	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	10
	配偶者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
1か月～3か月	本人	30	8	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	40	44
	配偶者	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	4
3か月～半年	本人	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	16
	配偶者	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	6
半年以上	本人	0	8	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	12	21
	配偶者	1	5	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	9
合計		46	32	2	4	13	3	1	19	1	3	1	0	0	3	128	128
%		35.9	25.0	1.6	3.1	10.2	2.3	0.8	14.8	0.8	2.3	0.8	0.0	0.0	2.3	100	100

Q15-4. これまでに、以下のサービスの中で定期的に利用したものはどれですか。（該当するものを全て選んで下さい。）配偶者の方が利用した場合もお答えください。

1. 認可保育園
2. 民間の保育園
3. 勤務先保育園
4. ベビーシッター
5. 学童保育
6. ファミリーサポート
7. 親族による支援

回答	回答数	%
認可保育園	115	36.7
民間の保育園	77	24.6
勤務先保育園	28	8.9
ベビーシッター	30	9.6
学童保育	72	23.0
ファミリーサポート	19	6.1
親族による支援	131	41.9
無回答	74	23.6
回答数合計	472	
回答者数	313	

Q16. 平日におけるおおよその時間配分について伺います。

・1日に【研究】にどの位費やしていますか。

1. 0時間
2. 1時間
3. 2時間
4. 3時間
5. 4時間
6. 5時間
7. 6時間
8. 7時間
9. 8時間
10. 9時間
11. 10時間以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	5	1.0	3	0.8	2	1.3	0	0.0	0	0.0
1時間	47	9.2	36	10.2	10	6.5	1	50.0	0	0.0
2時間	52	10.1	33	9.3	19	12.3	0	0.0	0	0.0
3時間	78	15.2	56	15.8	21	13.5	1	50.0	0	0.0
4時間	53	10.3	39	11.0	14	9.0	0	0.0	0	0.0
5時間	59	11.5	39	11.0	20	12.9	0	0.0	0	0.0
6時間	53	10.3	34	9.6	19	12.3	0	0.0	0	0.0
7時間	30	5.8	20	5.6	10	6.5	0	0.0	0	0.0
8時間	61	11.9	40	11.3	19	12.3	0	0.0	2	100.0
9時間	21	4.1	15	4.2	6	3.9	0	0.0	0	0.0
10時間以上	54	10.5	39	11.0	15	9.7	0	0.0	0	0.0
合計	513	100.0	354	100.0	155	100.0	2	100.0	2	100.0
有効回答	513	97.0	354	66.9	155	29.3	2	0.4	2	0.4
無回答	16	3.0	3	0.6	7	1.3	1	0.2	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

・1日に【教育】にどの位費やしていますか。

1. 0時間
2. 1時間
3. 2時間
4. 3時間
5. 4時間
6. 5時間
7. 6時間
8. 7時間
9. 8時間
10. 9時間
11. 10時間以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	60	11.9	26	7.4	33	22.1	0	0.0	1	50.0
1時間	107	21.3	76	21.7	30	20.1	0	0.0	1	50.0
2時間	126	25.0	94	26.9	32	21.5	0	0.0	0	0.0
3時間	95	18.9	69	19.7	25	16.8	1	50.0	0	0.0
4時間	58	11.5	42	12.0	16	10.7	0	0.0	0	0.0
5時間	31	6.2	25	7.1	5	3.4	1	50.0	0	0.0
6時間	14	2.8	9	2.6	5	3.4	0	0.0	0	0.0
7時間	1	0.2	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0
8時間	5	1.0	4	1.1	1	0.7	0	0.0	0	0.0
9時間	1	0.2	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0
10時間以上	5	1.0	5	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	503	100.0	350	100.0	149	100.0	2	100.0	2	100.0
有効回答	503	95.1	350	66.2	149	28.2	2	0.4	2	0.4
無回答	26	4.9	7	1.3	13	2.5	1	0.2	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

・1日に【運営】にどの位費やしていますか。

1. 0時間
2. 1時間
3. 2時間
4. 3時間
5. 4時間
6. 5時間
7. 6時間
8. 7時間
9. 8時間
10. 9時間
11. 10時間以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	93	18.8	54	15.7	37	25.2	0	0.0	2	100.0
1時間	145	29.2	101	29.3	43	29.3	1	50.0	0	0.0
2時間	94	19.0	63	18.3	31	21.1	0	0.0	0	0.0
3時間	59	11.9	48	13.9	11	7.5	0	0.0	0	0.0
4時間	41	8.3	29	8.4	11	7.5	1	50.0	0	0.0
5時間	24	4.8	20	5.8	4	2.7	0	0.0	0	0.0
6時間	18	3.6	12	3.5	6	4.1	0	0.0	0	0.0
7時間	7	1.4	6	1.7	1	0.7	0	0.0	0	0.0
8時間	9	1.8	7	2.0	2	1.4	0	0.0	0	0.0
9時間	1	0.2	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10時間以上	5	1.0	4	1.2	1	0.7	0	0.0	0	0.0
合計	496	100.0	345	100.0	147	100.0	2	100.0	2	100.0
有効回答	496	93.8	345	65.2	147	27.8	2	0.4	2	0.4
無回答	33	6.2	12	2.3	15	2.8	1	0.2	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

・1日に【診療】にどの位費やしていますか。

1. 0時間
2. 1時間
3. 2時間
4. 3時間
5. 4時間
6. 5時間
7. 6時間
8. 7時間
9. 8時間
10. 9時間
11. 10時間以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	405	93.1	279	94.3	122	90.4	2	100.0	2	100.0
1時間	12	2.8	8	2.7	4	3.0	0	0.0	0	0.0
2時間	3	0.7	2	0.7	1	0.7	0	0.0	0	0.0
3時間	4	0.9	1	0.3	3	2.2	0	0.0	0	0.0
4時間	2	0.5	1	0.3	1	0.7	0	0.0	0	0.0
5時間	1	0.2	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0
6時間	3	0.7	2	0.7	1	0.7	0	0.0	0	0.0
7時間	1	0.2	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0
8時間	3	0.7	2	0.7	1	0.7	0	0.0	0	0.0
9時間	1	0.2	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	435	100.0	296	100.0	135	100.0	2	100.0	2	100.0
有効回答	435	100.0	296	68.0	135	31.0	2	0.5	2	0.5
無回答	94	21.6	61	14.0	27	6.2	1	0.2	5	1.1
総合計	529	121.6	357	82.1	162	37.2	3	0.7	7	1.6

・1日に【家事・育児・介護】にどの位費やしていますか。

1. 0時間
2. 1時間
3. 2時間
4. 3時間
5. 4時間
6. 5時間
7. 6時間
8. 7時間
9. 8時間
10. 9時間
11. 10時間以上

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	89	18.1	75	22.3	12	7.8	1	50.0	1	50.0
1時間	168	34.1	139	41.4	29	19.0	0	0.0	0	0.0
2時間	97	19.7	63	18.8	33	21.6	1	50.0	0	0.0
3時間	55	11.2	28	8.3	27	17.6	0	0.0	0	0.0
4時間	30	6.1	16	4.8	14	9.2	0	0.0	0	0.0
5時間	27	5.5	7	2.1	19	12.4	0	0.0	1	50.0
6時間	11	2.2	5	1.5	6	3.9	0	0.0	0	0.0
7時間	6	1.2	0	0.0	6	3.9	0	0.0	0	0.0
8時間	7	1.4	2	0.6	5	3.3	0	0.0	0	0.0
9時間	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10時間以上	3	0.6	1	0.3	2	1.3	0	0.0	0	0.0
合計	493	100.0	336	100.0	153	100.0	2	100.0	2	100.0
有効回答	493	93.2	336	63.5	153	28.9	2	0.4	2	0.4
無回答	36	6.8	21	4.0	9	1.7	1	0.2	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q17. 昨年度の教育・会議等への出席・研究について伺います。

Q17-1. 教育活動について、昨年度の担当授業時間（1週間あたりの平均）をお答えください。

1. 0時間
2. 5時間未満
3. 5時間以上10時間未満
4. 10時間以上20時間未満
5. 20時間以上

a. 授業・実習等

回答	回答数	%
0時間	138	27.8
5時間未満	248	50.0
5時間以上10時間未満	83	16.7
10時間以上20時間未満	21	4.2
20時間以上	6	1.2
合計	496	100.0
有効回答	496	93.8
無回答	33	6.2
総合計	529	100.0

b. 学生の研究指導等

回答	回答数	%
0時間	77	15.5
5時間未満	172	34.7
5時間以上10時間未満	112	22.6
10時間以上20時間未満	84	16.9
20時間以上	55	11.1
合計	500	100.8
有効回答	500	94.5
無回答	29	5.5
総合計	529	100.0

c. 他大学の非常勤講師

回答	回答数	%
0時間	352	73.9
5時間未満	113	23.7
5時間以上10時間未満	10	2.1
10時間以上20時間未満	1	0.2
20時間以上	0	0.0
合計	476	100.0
有効回答	476	90.0
無回答	53	10.0
総合計	529	100.0

Q17-2. 昨年度の学内外の会議・委員会等への出席回数（1月あたりの平均）をお答えください。

1. 0回
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回
6. 5回
7. 6回
8. 7回
9. 8回
10. 9回
11. 10回以上

a. 学内の会議

回答	回答数	%
0回	91	18.1
1回	109	21.7
2回	74	14.7
3回	49	9.7
4回	44	8.7
5回	37	7.4
6回	14	2.8
7回	8	1.6
8回	13	2.6
9回	0	0.0
10回以上	64	12.7
合計	503	100.0
有効回答	503	95.1
無回答	26	4.9
総合計	529	100.0

b. 学外の会議（地方公共団体等委員会、学会や研究会の会合）

回答	回答数	%
0回	149	29.8
1回	162	32.4
2回	80	16.0
3回	43	8.6
4回	14	2.8
5回	12	2.4
6回	4	0.8
7回	5	1.0
8回	6	1.2
9回	0	0.0
10回以上	25	5.0
合計	500	100.0
有効回答	500	94.5
無回答	29	5.5
総合計	529	100.0

Q17-3. 昨年度の研究活動に関する出張及び学術誌等への掲載論文数等をお答えください。

1. 0回
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回
6. 5回
7. 6回
8. 7回
9. 8回
10. 9回
11. 10回以上

国内出張

回答	回答数	%
0回	40	8.0
1回	30	6.0
2回	49	9.8
3回	60	12.0
4回	33	6.6
5回	47	9.4
6回	28	5.6
7回	8	1.6
8回	21	4.2
9回	1	0.2
10回以上	182	36.5
合計	499	100.0
有効回答	499	94.3
無回答	30	5.7
総合計	529	100.0

学術誌（紀要、共著を含む）の掲載論文数

回答	回答数	%
0回	58	11.6
1回	80	16.0
2回	87	17.4
3回	78	15.6
4回	43	8.6
5回	52	10.4
6回	23	4.6
7回	13	2.6
8回	15	3.0
9回	3	0.6
10回以上	47	9.4
合計	499	100.0
有効回答	499	94.3
無回答	30	5.7
総合計	529	100.0

書籍の執筆載論文数

回答	回答数	%
0回	311	63.3
1回	128	26.1
2回	33	6.7
3回	13	2.6
4回	4	0.8
5回	1	0.2
6回	0	0.0
7回	0	0.0
8回	0	0.0
9回	0	0.0
10回以上	1	0.2
合計	491	100.0
有効回答	491	92.8
無回答	38	7.2
総合計	529	100.0

特許の出願数

回答	回答数	%
0回	406	83.7
1回	36	7.4
2回	22	4.5
3回	15	3.1
4回	2	0.4
5回	2	0.4
6回	0	0.0
7回	1	0.2
8回	1	0.2
9回	0	0.0
10回以上	0	0.0
合計	485	100.0
有効回答	485	91.7
無回答	44	8.3
総合計	529	100.0

Q18. 現在、あなたの生活のワークライフバランスには満足していますか

- 満足している
- どちらかという満足している
- あまり満足していない
- 全く満足していない

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
満足している	85	16.3	64	18.0	21	13.0	0	0.0	0	0.0
どちらかという満足している	256	49.0	176	49.4	79	49.1	0	0.0	1	50.0
あまり満足していない	141	27.0	88	24.7	53	32.9	0	0.0	0	0.0
全く満足していない	40	7.7	28	7.9	8	5.0	3	100.0	1	50.0
合計	522	100.0	356	100.0	161	100.0	3	100.0	2	100.0
有効回答	522	98.7	356	67.3	161	30.4	3	0.6	2	0.4
無回答	7	1.3	1	0.2	1	0.2	0	0.0	5	0.9
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q18-1. その理由について記入してください

自由回答

回答	回答数	%
有効回答	153	28.9
無回答	376	71.1
総合計	529	100.0

Q18-2. あなたの生活のワークライフバランスに満足していない状況をどう考えていますか。

- 改善したいので、そのための努力をしている
- 改善したいと考えているが、特に努力はしていない
- 研究活動のためには仕方がない（現状維持で構わない）
- その他

回答	全体		男		女		回答しない		性別無記入	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
改善したいので、そのための努力をしている	78	44.1	51	44.3	26	44.8	1	33.3	0	0.0
改善したいと考えているが、特に努力はしていない	49	27.7	39	33.9	10	17.2	0	0.0	0	0.0
研究活動のためには仕方がない（現状維持で構わない）	15	8.5	6	5.2	8	13.8	0	0.0	1	100.0
その他	35	19.8	19	16.5	14	24.1	2	66.7	0	0.0
合計	177	100.0	115	100.0	58	100.0	3	100.0	1	100.0
有効回答	177	33.5	115	21.7	58	11.0	3	0.6	1	0.2
無回答	352	66.5	242	45.7	104	19.7	0	0.0	6	1.1
総合計	529	100.0	357	67.5	162	30.6	3	0.6	7	1.3

Q18-3. その状況を改善するためには、どうしたらよいと思いますか。また、どのような努力をされていますか。個人的な対応だけでなく、大学がとるべき対策もあれば記入して下さい。（自由記述）

自由回答

回答	回答数	%
有効回答	144	27.2
無回答	385	72.8
総合計	529	100.0

セクションD 男女共同参画・女性研究者支援

Q19. あなた自身の男女共同参画・研究者支援に関する取組で、以下のうち該当するもの全てを選んで下さい。

- 東北大学（研究科内も含む）の男女共同参画担当委員を経験したことがある。
- 学外（学会・公的機関等）の男女共同参画担当委員を経験したことがある。
- 学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として携わったことがある。
- 学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。
- 学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として携わったことがある。
- 学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。
- 男女共同参画に関わる支援を受けたことがある。
- その他
- 該当しない・参画したことがない

回答	回答数	%
東北大学（研究科内も含む）の男女共同参画担当委員を経験したことがある。	66	12.5
学外（学会・公的機関等）の男女共同参画担当委員を経験したことがある。	21	4.0
学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として携わったことがある。	47	8.9
学内での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。	143	27.0
学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに、運営担当あるいは講師等として携わったことがある。	30	5.7
学外での男女共同参画または女性研究者向けの研究会やシンポジウムに出席したことがある。	76	14.4
男女共同参画に関わる支援を受けたことがある。	69	13.0
その他	4	0.8
該当しない・参画したことがない	22	4.2
無回答	284	53.7
回答数合計	762	
回答者数	245	

Q20. あなたは以下のものを知っていますか。知っているもの全てを選んで下さい。

- 男女共同参画委員会
- 男女共同参画推進センター
- 東北大学における男女共同参画推進のための行動指針

回答	回答数	%
男女共同参画委員会	339	64.1
男女共同参画推進センター	322	60.9
東北大学における男女共同参画推進のための行動指針	219	41.4
無回答	111	21.0
回答数合計	991	
回答者数	418	

Q21-a. 川内けやき保育園

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	24	4.8
利用したことがない	455	91.0
その他	21	4.2
合計	500	100.0
有効回答	500	94.5
無回答	29	5.5
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 子どもはいない
4. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
5. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
6. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
7. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）
8. 他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	33	7.3
必要がない（なかった）	206	45.3
子どもはいない	150	33.0
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	11	2.4
利用の仕方がわからない（わからなかった）	4	0.9
手続きが煩雑で断念している（断念した）	4	0.9
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	20	4.4
他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）	27	5.9
合計	455	100.0

Q21-b. 星の子保育園

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	4	0.8
利用したことがない	452	95.8
その他	16	3.4
合計	472	100.0
有効回答	472	89.2
無回答	57	10.8
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）
7. 他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	83	18.4
必要がない（なかった）	303	67.0
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	26	5.8
利用の仕方がわからない（わからなかった）	6	1.3
手続きが煩雑で断念している（断念した）	2	0.4
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	13	2.9
他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）	19	4.2
合計	452	100.0

Q21-c. 星の子ルーム（病後児保育）

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	23	4.9
利用したことがない	438	92.6
その他	12	2.5
合計	473	100.0
有効回答	473	89.4
無回答	56	10.6
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）
7. 他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	91	20.8
必要がない（なかった）	299	68.3
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	17	3.9
利用の仕方がわからない（わからなかった）	5	1.1
手続きが煩雑で断念している（断念した）	9	2.1
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	12	2.7
他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）	5	1.1
合計	438	100.0

Q21-d. 研究支援要員

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	20	4.2
利用したことがない	450	94.1
その他	8	1.7
合計	478	100.0
有効回答	478	90.4
無回答	51	9.6
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）
7. 他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	170	37.8
必要がない（なかった）	212	47.1
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	33	7.3
利用の仕方がわからない（わからなかった）	8	1.8
手続きが煩雑で断念している（断念した）	4	0.9
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	21	4.7
他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）	2	0.4
合計	450	100.0

Q21-e. ベビーシッター利用料等補助

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	21	4.4
利用したことがない	449	93.5
その他	10	2.1
合計	480	100.0
有効回答	480	90.7
無回答	49	9.3
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）
7. 他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	144	32.1
必要がない（なかった）	265	59.0
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	18	4.0
利用の仕方がわからない（わからなかった）	5	1.1
手続きが煩雑で断念している（断念した）	3	0.7
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	11	2.4
他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）	3	0.7
合計	449	100.0

Q21-f. TUMUG Cafe

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

回答	回答数	%
参加したことがある	27	5.4
参加したことがない	474	94.6
合計	501	100.0
有効回答	501	94.7
無回答	28	5.3
総合計	529	100.0

Q22-a. リーダー研究支援要員

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	4	0.8
利用したことがない	475	98.3
その他	4	0.8
合計	483	100.0
有効回答	483	91.3
無回答	46	8.7
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	251	52.8
必要がない（なかった）	131	27.6
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	61	12.8
利用の仕方がわからない（わからなかった）	6	1.3
手続きが煩雑で断念している（断念した）	3	0.6
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	23	4.8
合計	475	100.0

Q22-b. スタートアップ研究費

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	30	6.2
利用したことがない	448	92.8
その他	5	1.0
合計	483	100.0
有効回答	483	91.3
無回答	46	8.7
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 必要がない（なかった）
2. 知らない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）

回答	回答数	%
必要がない（なかった）	133	29.7
知らない（なかった）	141	31.5
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	110	24.6
利用の仕方がわからない（わからなかった）	10	2.2
手続きが煩雑で断念している（断念した）	1	0.2
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	53	11.8
合計	448	100.0

Q22-c. 研究スキルアップ経費

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	26	5.4
利用したことがない	450	93.6
その他	5	1.0
合計	481	100.0
有効回答	481	90.9
無回答	48	9.1
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	206	45.8
必要がない（なかった）	120	26.7
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	78	17.3
利用の仕方がわからない（わからなかった）	9	2.0
手続きが煩雑で断念している（断念した）	3	0.7
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	34	7.6
合計	450	100.0

Q22-d. 「科学研究費助成事業」フォローアップ

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	31	6.5
利用したことがない	446	93.1
その他	2	0.4
合計	479	100.0
有効回答	479	90.7
無回答	49	9.3
総合計	528	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	211	47.3
必要がない（なかった）	126	28.3
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	55	12.3
利用の仕方がわからない（わからなかった）	19	4.3
手続きが煩雑で断念している（断念した）	8	1.8
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	27	6.1
合計	446	100.0

Q22-e. 国際学術論文作成のための英文校閲費用補助

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. その他

回答	回答数	%
利用したことがある	14	2.9
利用したことがない	466	95.9
その他	6	1.2
合計	486	100.0
有効回答	486	91.9
無回答	43	8.1
総合計	529	100.0

【利用したことがない理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	259	55.6
必要がない（なかった）	122	26.2
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	46	9.9
利用の仕方がわからない（わからなかった）	14	3.0
手続きが煩雑で断念している（断念した）	5	1.1
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	20	4.3
合計	466	100.0

Q22-f. 沢柳フェローランチミーティング

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

回答	回答数	%
参加したことがある	26	5.3
参加したことがない	467	94.7
合計	493	100.0
有効回答	493	93.2
無回答	36	6.8
総合計	529	100.0

Q22-g. TUMUG Forum（女性研究者研究発表・交流会）

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

回答	回答数	%
参加したことがある	31	6.3
参加したことがない	462	93.7
合計	493	100.0
有効回答	493	93.2
無回答	36	6.8
総合計	529	100.0

Q23-a. サイエンス・エンジェルへの「あなた」、あるいは「あなたの指導する学生」が参加したことがある。

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

回答	回答数	%
参加したことがある	86	17.2
参加したことがない	414	82.8
合計	500	100.0
有効回答	500	94.5
無回答	29	5.5
総合計	529	100.0

Q23-b. 仙台Iゾンクラブ 東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業へ「あなた」、あるいは「あなたの指導する学生」が採択されたことがあるか

1. ある
2. ない
3. その他

回答	回答数	%
ある	8	1.7
ない	464	96.9
その他	7	1.5
合計	479	100.0
有効回答	479	90.5
無回答	50	9.5
総合計	529	100.0

【採択されなかった理由】

1. 知らない（なかった）
2. 必要がない（なかった）
3. 自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）
4. 利用の仕方がわからない（わからなかった）
5. 手続きが煩雑で断念している（断念した）
6. 自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）
7. 他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）

回答	回答数	%
知らない（なかった）	263	56.7
必要がない（なかった）	117	25.2
自分は対象にならない（対象部局ではない）と考えている（考えた）	55	11.9
利用の仕方がわからない（わからなかった）	4	0.9
手続きが煩雑で断念している（断念した）	2	0.4
自分のケースが基準を満たさない（満たさなかった）	20	4.3
他の機関等のより良いサービスが利用可能である（あった）	3	0.6
合計	464	100.0

Q24-a. 男女共同参画シンポジウム

1. 参加したことがある
2. 参加したことがない

回答	回答数	%
参加したことがある	127	24.8
参加したことがない	385	75.2
合計	512	100.0
有効回答	512	96.8
無回答	17	3.2
総合計	529	100.0

Q24-b. TUMUGニュースレター

1. 読んだことがある
2. 読んだことがない

回答	回答数	%
読んだことがある	289	56.4
読んだことがない	223	43.6
合計	512	100.0
有効回答	512	96.8
無回答	17	3.2
総合計	529	100.0

Q25. 東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関するご意見やご要望をお書きください。（現在不足している支援、事業等がありましたら具体的に記入してください。）

自由記述

回答	回答数	%
有効回答	111	21.0
無回答	418	79.0
総合計	529	100.0

Q12-1. どのようなことにやりがいや満足感を感じますか？

	回答内容	性別	年齢	職名	雇用形態
1	研究が着実に進んでいること。	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
2	研究内容	男	55-59 歳	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
3	仕事	女	30-34 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
4	自分のやっていることが国際保健に貢献しているという実感	女	40-44 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
5	研究成果をまとめることができたとき、学生・ポストドク指導など	女	45-49 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
6	これまでとは異なる研究知見を成果として出せること	女	40-44 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
7	若い研究者へのサポート	女	50-54 歳	助手	常勤（任期あり）
8	自分が考えたアイデアがうまくいったとき	女	25-29 歳	助手	常勤（任期なし）
9	学生の指導	女	50-54 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
10	未知の新知見が得られたとき	女	35-39 歳	講師（特任を含む）	常勤（任期あり）
11	大学院生、学部生の研究がうまく進んで、学生がはつらつと元気にしているのを見る時、学生の能力の高さに驚かされた時、自分なりに何かを成し遂げたと感じた時などに幸せや満足感を覚えます。	女	60 歳以上	教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
12	学生からのフィードバック	女	30-34 歳	講師（特任を含む）	常勤（任期なし）
13	やった研究が論文として形に残ること	女	35-39 歳		非常勤
14	研究の進展	男	50-54 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）
15	新たな発見をすること、学生が育っていくこと	男	50-54 歳	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
16	未知の領域を開拓すること	女	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
17	研究、教育	女	45-49 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
18	問題意識の解決が社会への貢献となると思っている。研究課題についてかなり悩みを続けている。研究が自分にあると分かったので、研究世界に入った。	女	50-54 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
19	医師として患者の回復や治癒、成長を感じた時	女	50-54 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
20	良好な研究環境の中で自分の裁量で研究ができており、また、適切な人数の学生指導を行うことができています。	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
21	社会に貢献できる成果を発信すること	男	60 歳以上	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
22	世界最先端の学術を開拓し、人材を育成・登用している。	男	60 歳以上	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
23	誰も到達していないことを達成できたとき。	男	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）
24	研究の進展	女	35-39 歳	講師（特任を含む）	常勤（任期あり）
25	自分が取り組んでいる問題がもっとも重要であると感じられる	男	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
26	新しいことに挑戦できること	女	25-29 歳	テクニシャン	常勤（任期あり）
27	学生の成長、研究の進展	女	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）
28	研究及び教育	男	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
29	未知の新しいことに取り組めること	女	55-59 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
30	研究、授業、海外交流	男	55-59 歳	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
31	研究、教育、運営改善	男	40-44 歳	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
32	これまでの研究の深化や新規研究への取り組みなど。	男	45-49 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
33	研究で良い成果を出せたとき	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
34	自身のリサーチクエストを解明する機会に恵まれている	女	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
35	成果が評価される時	女	40-44 歳	講師（特任を含む）	常勤（任期あり）
36	Little administration and teaching requirement	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
37	研究によって新しい知見を生み出し、技術開発や政策への指針をしめすこと	女	40-44 歳	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
38	必要だと思う研究内容を追求できる	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
39	聴衆に研究を理解して貰った時、論文査読者に理解され、褒められた時。	女	35-39 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
40	自分の経験、語学力を生かすことができる。	女	35-39 歳	助手	常勤（任期あり）
41	研究成果が国内外で評価されたとき	女	30-34 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）
42	1. 研究そのものへの従事 2. 研究の進展 3. 若い研究者の養成	女	60 歳以上	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
43	研究成果をあげること。	男	30-34 歳		常勤（任期あり）
44	学生を指導することを通じて、次世代に知識や教養を教える・共通することができ、かつ自分の興味ある研究を（ある程度）することができること。また、研究科における教務や行政の業務の負担が大きいです。そのうち研究科や大学に建言できることも考えたいので、行政に参加する義務を凄く苦にはしていません。	女	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）

Q12-2. 研究(仕事)がどのようになればやりがいや満足感があるとお考えですか？

	回答内容	性別	年齢	職名	雇用形態
1	もっと時間が取れる	女	50-54歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
2	勤務時間内に自身の研究時間が持てるような業務体系 常勤研究員の増加	女	45-49歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
3	もっと自由と時間が欲しい	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
4	任期なしの常勤職につければ	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
5	少なくとも専門に関連する調査は動けば	女	35-39歳	助手	常勤(任期あり)
6	仕事の内容には不足がないが、保証されていることより(給与や勤務 期限があること)多くを望まれていると思う。保証をもう少し、安定 してほしい。	女	30-34歳		非常勤
7	任期をなくして欲しい。	女	40-44歳		非常勤
8	興味のある分野の研究がしたい。	女	24歳以下		非常勤
9	自由な研究	男	55-59歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
10	他の業種と比べて、それ相応の報酬であればよい。現状は、名誉職に 近い。	男	50-54歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
11	研究科内の円滑な意思疎通、特定教員への仕事集中改善、能力主義の 導入による正しい教員評価(教員選考・昇任人事基準の明確化、研究 費配分の適正化、教育負担の偏重)、基礎的な個人研究費増額(外部 資金獲得に努力すべきだが、最低の水準は維持)	男	45-49歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
12	学生や若い人が教室にいること	男	55-59歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
13	職務状況に対する正当な対価・地位が保証されれば	男	45-49歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
14	十分に研究に集中できる時間があれば	男	35-39歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
15	雑用が多い、事務処理が多い	男	55-59歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
16	無駄な雑務を減らし、潤沢な研究費とやる気にあふれた能力の高い院 生に囲まれ、研究に没頭できる環境になれば。	男	45-49歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
17	雑務にとらわれず研究に集中したい	男	50-54歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
18	より自由な研究が推進できるようになる。	男	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
19	自分のやりたい事をやれるようになれば	男	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
20	1年毎に成果を求めるのではなく時間をかけて研究ができるような環 境が必要	男	25-29歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
21	教授のプロジェクトの管理、割り当てられた学会の運営、それに関連 する事務仕事に割く時間を減らせば良い。	男	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
22	任期なしになれば満足感があると感じます。	男	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
23	研究以外の仕事(事務的な手続きなど)を大幅に減らして、自由に研 究が出来る(研究に集中できる)環境が必要だと思います	男	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
24	任期の不安がなくなれば	男	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
25	無駄と感じる業務を無くす	男	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期なし)
26	学生の自立・自律性、協調性の増進(によってもたらされると期待し うる人的環境の改善)	男	35-39歳	助手	非常勤
27	経済的安定や研究時間が与えられれば。	男	40-44歳	教育研究支援者	非常勤
28	雑務に振り回されず、研究に集中できる環境があればよいと考えます。	男	35-39歳	教育研究支援者	非常勤
29	研究室の雑用や学生指導に追われる日々ではなく、研究に専念する時 間を得る環境になれば。	男	35-39歳		常勤(任期あり)

Q18. ワークライフバランスには満足していますか

Q18-1. その理由について記入してください

	回答内容	性別	年齢	職名	雇用形態
1	仕事の時間が長く、子供達との時間がおもうようにとれない。(単身赴 任である上で)子供の小学校進学にともない、出張ができなくなった。	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期なし)
2	育児には相当の時間を要し、帰宅する必要があるため。	女	40-44歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
3	組織運営のための会議、用務が多いため	男	45-49歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
4	勤務時間外の仕事が多く、家事に当てる時間が少ない。	女	50-54歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
5	ワークにやや偏っている	男	60歳以上	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
6	子供との別居が厳しい年頃になってきた	女	45-49歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
7	自分の仕事が十分に進まない	女	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期なし)
8	仕事とプライベートの境界が不明確	女	45-49歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
9	負担が多い	女	40-44歳		非常勤
10	研究職でありながら、堂々と研究する時間と環境がない	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
11	仕事があると、プライベートの時間は作れない	女	25-29歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
12	東北大学での仕事にやりがいを感じ、ここで継続して働きたいのと同 時に、夫と同居したい気持ちもあるため。	女	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
13	家庭での時間が短い	女	50-54歳	助教(特任を含む)	常勤(任期なし)
14	業務量が多く、仕事に要する時間が長すぎる	女	40-44歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
15	学内外の会議等が多すぎる	男	55-59歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
16	もっと研究に時間を使いたい	女	55-59歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
17	やりたいことができなく、労働時間に対して給料が低く、客観的に業 績が評価されない環境にいる	男	45-49歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
18	バランスが取れているとは言えないから	女	35-39歳	技術補佐	非常勤
19	着任1年目ですが、家族が2人づつに別れて暮らしており、移動費 用がかかるのに単身赴任手当(単身ではなく母と子で暮らしていま すが)がもらえない。今年度は仕方ないと割り切って、交通費に支出 しているが、支援してもらえると有り難いと思う。 また、現在は雨宮Cで、近隣は居住地域であり、職住密接しているため、 家庭と仕事を両立できているが、青葉山に移転すると現在より研究室 滞在時間は減少するため、どうするか悩んでいる。	女	40-44歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
20	年度雇用のため将来の見通しが立たず、ワーク(研究)に時間を投資 するしかない状況だから。	女	30-34歳	研究支援者(ポスド ク)	常勤(任期あり)
21	人としてのライフイベントを経る余裕が無いから	女	25-29歳		常勤(任期あり)
22	研究にもっと時間を割きたいです。	女	35-39歳	助手	常勤(任期あり)
23	余裕がない(時間的、精神的)	女	45-49歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
24	東北大学に異動するために配偶者と別居せざるを得なかったため。	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
25	業務時間が長くなってしまいが、内容に満足してきけるわけではないか ら。	女	35-39歳	助手	常勤(任期あり)
26	研究室にいる時間が長すぎる。	女	25-29歳	助手	常勤(任期なし)
27	時間雇用だから	女	40-44歳		
28	仕事がどんどん来て時間が足りない	男	60歳以上	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
29	時間が足りない	男	50-54歳	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
30	もう少し家事を減らして研究に時間を費やしたい。	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
31	運営・管理に余りに多忙。	男	60歳以上	教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
32	妊娠、出産をすることを考えると不安	女	30-34歳		非常勤
33	子どもが幼く、身の回りの世話や食事等に時間が大幅に掛かる。時間 と体力をもう少し研究活動へ注げるようになる時期が待ち遠しく思う。	女	35-39歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
34	研究よりシンポジウムやセミナー、フォーラムなどに気を配りすぎ。 研究者として向かうべき問題に向き合えない。議論も討論も避けてい るので、もっぱらオンラインを通じた議論や、わざわざ外国の研究者 と話し合ったりする。	女	50-54歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
35	プライベートの確保が難しい	男	50-54歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
36	仕事内容が納得できないから。	女	24歳以下		非常勤
37	ワークへの偏りが大きい	女	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
38	日本人の夫が家事をやらない為、一方、外国人の男性研究者は親切で 良い。	女	35-39歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期あり)
39	思うようなワークライフバランスをとれていないため	女	30-34歳	助教(特任を含む)	常勤(任期あり)
40	雑用が多く、研究時間が確保できないため。	男	40-44歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
41	ワークが多い	男	30-34歳	准教授(特任を含む)	常勤(任期なし)
42	事務仕事が多く、研究の時間(=自分の生活時間)が十分にとれない ため。	男	30-34歳	教育研究支援者	非常勤

Q18-3. その状況を改善するためには、どうしたらよいと思いますか。また、どのような努力をされていますか。個人的な対応だけでなく、大学がとるべき対策もあれば記入して下さい。(自由記述)

	回答内容	性別	年齢	職名	雇用形態
1	なるべく効率的に仕事を進めるように努力している。有給をとりやすい環境づくりをお願いしたい。	女	25-29 歳	助手	常勤 (任期なし)
2	自身で努力はしているが、なかなか対応策が見つからない。大学側のアプローチとして、探索的および定期的な調査によって、状況確認を継続することが必要だと思います。	女	45-49 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
3	育児に関わっている教職員もいるので、17 時以降に終了する会議をなくす。	女	40-44 歳	研究支援者	非常勤
4	配偶者も一緒に異動できる制度、またはポジションへの応募者のうち、配偶者が東北大学の人を優先的に採用する制度の導入。	女	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
5	限られた時間内で最大限のパフォーマンスを維持出来るよう、計画を密に立て実行する。病後児保育ではなく、病児保育 (かつ手続が簡単なシステム) を切に望む。	女	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
6	個人的な努力 夜に一度帰り、子供を寝かしつけて研究室に戻るなどしている。 大学への要望 研究に集中できるように、事務仕事や運営の業務を減らしてほしい。	男	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
7	休日の預かり保育の検討	女	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
8	上級職位 (教授など) の意識改革が必要であり、「昔」と今は異なることを周知する	女	30-34 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
9	無駄な雑用を減らし、教員が研究にもっと時間を確保できるようにすることは、大学の意志の問題だと思います。	男	40-44 歳	准教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
10	事務作業 (物品購入や出張の書類作成、教材の印刷など) をサポートしてほしい。	女	55-59 歳	准教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
11	大学は無駄な運営業務を徹底的に減らす努力がまったく足りていない。	男	40-44 歳	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
12	男性も女性も育児家事研究にかける時間が平等になるように、昔ながらの男性社会精神を変えるよう * 教育 * を行ってほしい。	女	40-44 歳	准教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
13	現在育児休業中の教育研究支援者 (時間雇用職員) が保育園が見つからずに復帰できない状態であるため、いろいろと手を尽くしている。早期の学内保育園の拡充・新規開園を切望する。	女	40-44 歳	准教授 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
14	個人的には朝の時間をより効率的に利用できるように生活のリズムを調整したいです。	女	35-39 歳	助手	常勤 (任期あり)
15	みんなそれぞれ家庭の事情があるので、自分が育児で大変だから仕事を減らしてもらいたいという考えはないですが、やはり体力の限界がありますので、たとえ行政義務の仕事への参加を期間限定に減らすことや、仕事を評価する時に (育児や介護により) 不利にならない評価の仕方を考えていただければ嬉しいかもしれません。	女	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
16	大学の運営、事務的な仕事、非効率で無駄が多すぎるので、無駄を削減する。	男	50-54 歳	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
17	任期付き採用者の転職支援	女	45-49 歳	准教授 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
18	ワークライフバランスの重要性を理解した教授を増やすこと	男	30-34 歳	准教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
19	もっと業績を上げて、もう少し安定した生活ができるようになる必要がある	女	35-39 歳	技術補佐	非常勤
20	任期付き雇用においては、改善方法を思いつかない。	女	30-34 歳	研究支援者 (ポストドク)	常勤 (任期あり)
21	自分に仕事が多く集まってしまう原因のひとつとして「人のために動く」時間が長いということが挙げられる。本当に自分がやらなければならない仕事を後回しにしてしまう傾向になる。積極的に人助けをしてしまう性格なので、人のために動く仕事を減らしたくないが、自分の仕事とは何かを常に意識し、自分にしかできない仕事を最優先で取り組むようにしている。	女	30-34 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
22	配偶者 (パートナー) が転動になった際に帯同することができ、非常勤でも構わないので、事務や総務の仕事ではなく「研究」をすることが許されるようなフレキシブルな部署の設立	女	25-29 歳		常勤 (任期あり)
23	運営に関わるコーディネーターや事務の増員と積極的な参画	男	40-44 歳	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
24	大学が最低限用意すべき教育活動に必要な経費が当研究科では 0 円であるため、競争的研究費を当てるという矛盾した状態になっている。資金獲得のために、ありとあらゆることに奔走しているので、これが超過勤務の実態	男	50-54 歳	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
25	似たような報告、細かいデータばかり求めないこと。しかも、1 度ですむことを五月雨式に要求しないこと。独法化前に比べて明らかに事務作業が増えており、しかも増加傾向にある。	男	55-59 歳	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)

Q25. 東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関するご意見やご要望をお書きください。(現在不足している支援、事業等がありましたら具体的に記入してください。)

	回答内容	性別	年齢	職名	雇用形態
1	高校生以下の女性学生に対してもっと活動すべきと思う。	女	30-34 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
2	子供の一時保育サービスの不足 (料金が低い、利用可能人数が少ない)	女	40-44 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
3	春休みや夏休み、冬休みの学童保育のサービスを行ってほしい。午前中～お昼の子どもの預け先を探すのにとっても困る。	女	40-44 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
4	女性研究者支援を使用しており、とても助かっております。今後も継続していただきたいです。	女	25-29 歳	助手	常勤 (任期なし)
5	夫が他大学の教員として単身赴任中であり、毎週、遠方に在住の両親のサポートを受け、ようやく研究と育児 (1 歳と 3 歳) が両立できている状況である。その際にかかる交通費などをサポートしてくれる支援を期待する。企業等ではこの取り組みにより、女性による業務向上が報告されており、大学でも積極的に導入すべきであると考え。また、留学等を考えた場合、帰国後の保育園入園が一番の懸念事項となり、踏み切れずにいる。学内保育園の拡充にも期待したいところである。	女	35-39 歳	講師 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
6	学童がないこと。	女	30-34 歳	助手	常勤 (任期あり)
7	私は外部資金で雇われている研究員であるため、東北大学の職員を対象とする男女共同参画関連のサポートのほとんどが利用不可である。	女	35-39 歳		非常勤
8	女性研究者に関して、より多様なロールモデルの提示 (全員が育児や家庭との両立に関心を持っているわけではない。家庭を捨てて仕事一筋の人の話も聞きたい)。また、この前の男性性のシンポジウムは用事があって参加できなかったが興味深かった。ぜひ、女性向けだけでなく男性向け (男性を焦点にした) シンポジウムも盛んにやってほしい。	女	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
9	多くの支援事業が設置されている環境を大変有り難く感じています。特に責任重大な仕事が予定されている当日の子どもの突然の発熱等に対応するため、今後、手続等が簡単で、かつ病児中に子どもが安心して過ごせるような場所があると大変有り難いです。	女	35-39 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
10	支援額を減額して多くの研究者に恩恵を与えることは最もである。しかし、他の経費と合わせて使えるようにしてもらいたい。その件で事務の方が戦ってくれているので、ありがたいが、そうでもなければ毎月巨額の自腹出費になるため、申請さえもしない方が結果的によいのかもしれない。是非検討していただきたい。 制度の名前が色々で覚えるのに大変。 また、支給の通知の時期と事業実施の時期が前後したりする。 研究遂行のための支援であれば、内容について柔軟に対応できるとうれしい。毎回理由書を書く羽目になるため、お互いにとって効率的でないし、申し訳ない気持ちになる。 この制度を利用するためにも、研究に励むことができた。特に、教育のキャリアも積めてない状況での離職をせざるを得ない任期付きとしては、がこの制度がなかったら、成果をあげることも困難で、お陰さまで何回も研究成果発表ができた。非常にありがたいと思う。恩返しができない時間の猶予がないことが非常に残念。	女	50-54 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
11	女性教員に男女共同参画の業務が負担にならないように実施をお願いします。	男	60 歳以上	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)
12	男性上司である場合、どうしても家庭生活、妊娠、育児やその他ライフスタイルや考え方の相違が大きく、飲み会や教室旅行など通常業務範囲外の活動・イベントの頻度の多さや参加の強制などがあり、出席しなければ苦言を呈されることが多い。会議や学会等で週末や祝日に「仕事」が入りやすいのは仕方がなく、当たり前だと思うが、いわゆるノミネーションの押し付けなどは、ワークライフバランスを著しく崩すので、女性の活躍促進の活動も大切ですが、平等であっても、男女は異なるものではあるので、男性上司にもその点理解してもらおうような働きかけをしてほしい。	女	30-34 歳	助教 (特任を含む)	常勤 (任期あり)
13	私自身は研究者でない配偶者がおり、子供ももう小学生なので必要性は高くないが、子供が小さいときは海外講演等を断ったり、妻の急病でキャンセルしたこともあるので、難しいとは思いますが連続 120 時間以上や緊急 (休日や夜間を含む) の託児もあると良い。また、女性は休憩室などが整備されつつあるが、(十分に清掃された) 男性用休憩室やシャワー (理学部にはあるそうですが) もあると良い。	男	40-44 歳	教授 (特任を含む)	常勤 (任期なし)

	回答内容	性別	年齢	職名	雇用形態
14	明らかに学内保育園の定員が少なすぎる。祝日、日曜に研究集会有ったときに、ほとんどの保育園が閉まっているため子供を預ける先がなく研究集会に参加できない。今度作る青葉山保育園では休日・一時保育を考慮してください。 任期つきのポジションの人が産休育休を取得した場合の任期の延長など、取得したことが不利にならないような対策があると今後のキャリアに悪影響が出ず、良いと思います。 妊娠中の人に対して、体調に影響を及ぼすような業務は依頼しないように周知してください（自分から申請をする制度だと、上司から言われたことを断れない人が危険です）。 外国人研究者のためにもこのようなアンケートを英語でも行ってください。 「家庭と仕事を両立しながら研究業績をあげる」というのが「全ての人のにとって普通」になるように、全体の教育を行って下さい。	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
15	家庭との両立をしている場合などはフォーラムやイベントへの出席が難しい場合も多いので、女性研究者同士のコネクション形成支援サイトあるいはコミュニケーションサイトなどあれば有用かもしれません。	女	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
16	支援事業に申し込みたいことは何度もあったが、締め切りのタイミングが合わない。	女	40-44 歳	講師（特任を含む）	常勤（任期あり）
17	Thank you for the efforts!	女	40-44 歳	准教授（特任を含む）	常勤（任期あり）
18	Spouse Employment, Spousal hire 日本ではあまり例がありませんが、海外の大学ではしばしば耳にします。そういう制度があると研究者の別居解消に役立ちますし、優秀な研究者の獲得にも貢献があるのではないのでしょうか。	女	40-44 歳	教授（特任を含む）	常勤（任期なし）
19	ベビーシッター利用補助など実際の利用例または体験談があれば、より利用しやすいかと思えます。	女	35-39 歳	助手	常勤（任期あり）
20	女性への呼びかけだけでなく男性にも呼び掛けてほしい。	女	30-34 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期あり）
21	出産や育児に関する助成金は女性研究者にとって大きな助けとなると思う。これら以外は、なぜ女性を優先的に支援する必要があるのか正直に言ってあまりわからないが（男性でも必要な助成であり、成果や結果が評価されれば男女関係なく獲得できるものであると思うから）、女性研究者としてというより若手研究者として、ありがたい制度であると思っている。 ただ、このような研究費獲得のかわりに、男女共同推進センターなどが主催する催し物に参加する義務が生じると、ただでさえプライベートはおろか研究に割く時間も不足している研究者が余計に時間的に苦しくなると思う。特に、日曜・祝日などのセミナーやフォーラムに参加する必要があると、唯一の休みがなくなり精神的に厳しい。これでは逆効果である。センター側も成果を作らなければいけないという事情があるのだろうと理解しているが、普段から家事すらできない生活をしているのだから、日曜・祝日くらいは勤弁してほしいというのが正直なところである。	女	30-34 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）
22	①病後児保育や一時保育の規模・体制をもっと利用しやすいようにしてほしい。ベビーシッター利用料補助を2年間いただいておりますが、結局、子供を通常保育以外にシッターに預ける必要があるのは、一時的に仕事量が増える時期（センター入試、期末試験、修論卒論提出・審査など）または子供の体調が崩れたけど仕事を休めない時。しかし、このような臨時的な託児は、全く知らないシッターに預けることは躊躇うこと（子供が抵抗するなど）が多く、結局自分で頑張って面倒を見ることとなります。仕事のパフォーマンスにも響きます。かなり無理なお願望かもしれませんが、一時保育や病後児・病児保育の規模や応援体制をもっと利用しやすいようにしたいだけならば、もっと教育・研究活動に専念できると思いますので、ぜひ検討お願いしたいです。 ②女性教員の割合を増やすをエンパワーメント事業の目標（段階的目標）とされていますが、そのうちの一部として、「教員を募集する際、応募者の配偶者（特に子育て世代、介護が必要な家庭）がすでに東北大学の教職員もしくは近県など通いやすい範囲にて勤務されている場合、雇用の考慮に入ること（採択に加点がつくこと）」をご検討お願いします。それは、子育て世代から見ると、共働きによって、仕方がなく別居することがありますが、それによって育児の負担が片方になってしまいます。少しでもこのような現象を緩和するには、夫婦が同居できるような制度に向けての努力が必要と思ひまして、ぜひ検討していただけたらと思います。（自分対象者ではないですので、この制度があっても利益を得ることがないですが、あったらいいなと思ひことを提案させていただきました。）	女	35-39 歳	助教（特任を含む）	常勤（任期なし）

アンケート実施に際しましては多数の貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。
紙面スペースの都合上、掲載しきれなかったご意見もございますが、全て確認させていただき、取組の参考とさせていただきます。
今後とも宜しく願い申し上げます。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）
「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業（H28-H33）」

平成 28 年度「研究環境に関するアンケート」実施報告
2017 年 3 月発行

発行：〒 980-8577 東北大学男女共同参画推進センター
連絡先：宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1 エクステンション教育研究棟 1 階

TEL：022-217-6092

URL：http://www.tumug.tohoku.ac.jp

E-mail：tumug@morihome.tohoku.ac.jp

（2017 年 5 月より office@tumug.tohoku.ac.jp に変更）

